

# 「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく 利根川上流域の減災に係る取組方針

## ～取り組み状況のフォローアップ(取組事例)～

平成30年6月22日

利根川上流域大規模氾濫に関する減災対策協議会

# 概ね5年の取組項目と取組事例紹介ページ(1/5)

## 主な取組 ハード対策

### A) 洪水を河川内で安全に流す対策

⇒1.洪水を河川内で安全に流す対策……利根川上流河川事務所(p7、p8)

### B) 危機管理型ハード対策

⇒2.危機管理型ハード対策……利根川上流河川事務所(p9)

### C) 避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

⇒3.雨量・水位等の観測データ及び洪水時の状況を把握・伝達するための基盤整備

⇒4.簡易水位計や量水標、CCTVカメラの設置……利根川上流河川事務所(p10)

⇒5.防災行政無線の改良、防災ラジオの配布等……明和町(p37)、坂東市(p57)、古河市(p69)、  
栃木市(p71)、宮代町(p82)

⇒6.河川防災ステーションや避難地盛土の整備……利根川上流河川事務所(p11)

⇒7.水防活動を支援するための水防資機材等の配備

⇒8.庁舎、災害拠点病院や自家発電装置等の耐水化……境町(p28)、坂東市(p58)、栃木市(p72)

⇒9.対策本部、警戒本部等設置時の情報収集・伝達設備

⇒10.排水機場の耐水化等、水門等操作の水圧対策

# 概ね5年の取組項目と取組事例紹介ページ(2/5)

## 主な取組 ソフト対策

### ①逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組(1/2)

#### ■ D) 住民等の避難行動につながるわかりやすいリスク情報の周知

- ⇒11.まるごとまちごとハザードマップ整備・拡充……常総市(p44)、坂東市(p59)
- ⇒12.越水開始予測情報の提供
- ⇒13.自治体や住民の視点に立った浸水シミュレーション情報の提供
- ⇒14.立ち退き避難が必要な浸水危険区域情報の提供……利根川上流河川事務所(p12)

#### ■ E) 避難計画、情報伝達方法等の改善

- ⇒15.住民等への情報伝達方法の改善……守谷市(p20)、境町(p29)、常総市(p45)、佐野市(p73)
- ⇒16.リアルタイム情報の提供やプッシュ型洪水予報の情報発信……利根川上流河川事務所(p13)
- ⇒17.避難勧告等の発令基準の改善
- ⇒18.避難場所・避難経路の再確認と改善
- ⇒19.避難誘導體制の充実
- ⇒20.要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進……群馬県(p68)

#### ■ F) 企業防災等に関する事項

- ⇒21.不特定多数の利用する地下施設の避難計画の作成及び訓練の促進
- ⇒22.大規模工場の避難計画の作成及び訓練の促進

# 概ね5年の取組項目と取組事例紹介ページ(3/5)

## 主な取組 ソフト対策

### ①逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組(2/2)

#### G) 広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知等

- ⇒23.想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図、氾濫シミュレーションの公表・・・利根川上流河川事務所(p14)
- ⇒24.氾濫特性を考慮した被害シナリオと緊急避難及び広域避難計画の策定
- ⇒25.広域避難のための避難場所の確保・・・境町(p30)
- ⇒26.広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知・・・境町(p31)、千代田町(p40)、我孫子市(p84)

#### H) 避難勧告の発令に着目したタイムラインの作成

- ⇒27.避難勧告の発令に着目したタイムラインの作成・・・境町(p32)、常総市(p46～p54)
- ⇒28.タイムラインに基づく実践的な訓練の実施・・・常総市(p55)、栃木県(p66)、葛飾区(p86)
- ⇒29.気象情報発信時の「危険度の色分け」や「警報級の現象」等の改善・・・東京管区气象台(p90)

#### I) 防災教育や防災知識の普及

- ⇒30.水防災の事前準備に関する問い合わせ窓口の設置
- ⇒31.水防災に関する説明会や避難訓練の開催・・・利根川上流河川事務所(p15)、板倉町(p33、p34)、取手市(p42)、加須市(p61)、古河市(p70)、館林市(p75)、行田市(p76)、本庄市(p77)、草加市(p79)、白岡市(p80)、上里町(p81)、茨城県(p88)
- ⇒32.教員を対象とした講習会の実施
- ⇒33.小中学生を対象とした防災教育の実施・・・板倉町(p35、p36)、明和町(p38)、常総市(p56)、栃木県(p67)、鴻巣市(p78)
- ⇒34.水災害の被害や教訓の伝承、防災知識の住民への周知・・・利根川上流河川事務所(p16)、板倉町(p33)、明和町(p39)、千代田町(p41)、取手市(p43)、加須市(p62～p64)、佐野市(p74)、我孫子市(p85)、埼玉県(p89)

# 概ね5年の取組項目と取組事例紹介ページ(4/5)

## 主な取組 ソフト対策

### ②洪水氾濫による被害の軽減、避難時間の確保のための水防活動の取組

#### ■ J) より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化

- ⇒35.河川水位等に係る情報提供
- ⇒36.河川の巡視区間、水防活動の実施体制の見直し
- ⇒37.水防資機材の情報共有や相互支援の仕組みの構築
- ⇒38.効率的、効果的な水防活動のため、洪水に対しリスクが高い区間情報の提供
- ⇒39.水防団や地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施
  - .....市区町・企業・利根川上流河川事務所(p17、p18)、坂東市(p60)
- ⇒40.水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施
- ⇒41.水防団同士の連絡体制の確保等による水防体制の強化
- ⇒42.関係機関及び住民が連携した実働水防訓練の実施
  - .....加須市・利根川上流河川事務所(p65)、野田市(p83)、江戸川区(p87)
- ⇒43.水防活動の担い手となる水防団員の募集や水防協力団体の指定の促進
- ⇒44.地域の建設業者による水防支援体制の検討・構築
- ⇒45.庁舎、災害拠点病院等の水害時における対応強化

# 概ね5年の取組項目と取組事例紹介ページ(5/5)

## 主な取組 ソフト対策

### ③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動等の取組

#### K) 氾濫水の早期排水のための効果的な施設運用

⇒46. 氾濫特性を踏まえた的確な排水機場の運用、水門の操作、排水ポンプ車の配置

#### L) 緊急排水計画(案)の作成及び排水訓練の実施

⇒47. 関係機関、自治体が共同して緊急排水計画(案)を作成

⇒48. 関係機関、自治体が連携した排水訓練の実施……市区町・利根川上流河川事務所(p19)

#### M) BCP(業務継続計画)に関する事項

⇒49. 水害時に行政機能を維持するBCPの策定

⇒50. 水害に対応した企業BCP策定への支援

#### N) 生活再建及び社会経済活動の回復のための民間力の活用

⇒51. 生活再建及び社会経済活動の回復のための民間力の活用

# 概ね5年で実施する取組事例の目次

## 主な取組方針 ハード対策

- A) 洪水を河川内で安全に流す対策
- B) 危機管理型ハード対策
- C) 避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備

No.		ハード対策の取組内容	実施主体者	記載頁
1	A	利根川右岸堤防の盛土工事や水路・道路の付け替え工事 (首都圏氾濫区域堤防強化対策)	利根川上流河川事務所	7
2	A	浸透対策、流下能力対策、パイピング対策、浸食・洗掘対策	利根川上流河川事務所	8
3	B	堤防天端の保護、堤防表法尻の補強	利根川上流河川事務所	9
4	C	危機管理型水位計の整備	利根川上流河川事務所	10
5	C	防災行政無線の改良	古河市	69
6	C	防災ラジオ配付	坂東市	57
6-2	C	防災行政無線の戸別受信機貸与事業	明和町	37
7	C	防災無線の拡張整備	栃木市	71
8	C	防災行政無線のデジタル化工事の実施	宮代町	82
9	C	目吹地区河川防災ステーションの整備	利根川上流河川事務所	11
10	C	庁舎非常用発電機の耐水化	坂東市	58
11	C	水害避難タワーの建設	境町	28
12	C	本庁舎の止水対策工事	栃木市	72

## 主な取組方針 ソフト対策

- ①逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

- D) 住民等の避難行動につながるわかりやすいリスク情報の周知
- E) 避難計画、情報伝達方法等の改善
- F) 企業防災等に関する事項
- G) 広域避難を考慮したハザードマップの作成・周知等
- H) 避難勧告の発令に着目したタイムラインの作成

No.		ソフト対策の取組内容	実施主体者	記載頁
13	D	標高表示	坂東市	59
14	D	まるごとまちごとハザードマップ整備・拡充	常総市	44
15	D	立退き避難が必要な浸水危険区域情報の提供～避難対策重点地区(仮称)の設定～	利根川上流河川事務所	12
16	E	住民等への情報伝達方法の改善	常総市	45
17	E	スマートフォンを活用した新たな情報伝達手段(クレーパメディア)	境町	29
18	E	PC、スマートフォン、携帯電話に防災・気象情報の配信	佐野市	73
19	E	緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信	利根川上流河川事務所	13
20	E	要配慮者利用施設Viewerの作成・配布	群馬県	68
20-2	E	市民生活総合支援アプリMorinfo(もりんふお)の活用	守谷市	20
21	G	想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図の公表	利根川上流河川事務所	14
22	G	想定最大規模降雨によるハザードマップの作成・周知	我孫子市	84
23	G	広域避難のための避難場所確保に関する取組	境町	30
24	G	「逃げときマップ」の作成	境町	31
24-2	G	千代田町防災マップの作成	千代田町	40
25	H	内水氾濫を踏まえた「利根川タイムライン」の作成	境町	32
26	H	みんなでタイムラインプロジェクト	常総市	46
27	H	タイムラインに基づく実践的な訓練	常総市	55
28	H	水害図上訓練の実施	葛飾区	86
29	H	タイムラインに基づく実践的な訓練(県土整備部タイムラインの作成と活用)	栃木県	66
30	H	「危険度の色分け」・「警報級の可能性」・「危険度分布」の提供開始、大雨・洪水警報等の改善	東京管区気象台	90

## 主な取組方針 ソフト対策

- ①逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

- I) 防災教育や防災知識の普及

- ②洪水氾濫による被害の軽減、避難時間の確保のための水防活動の取組

- J) より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化

- ③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動等の取組

- K) 氾濫水の早期排水のための効果的な施設選

- L) 緊急排水計画(案)の作成及び排水訓練の実施

- M) BCP(業務継続計画)に関する事項

- N) 生活再建及び社会経済活動の回復のための民間力の活用

No.		ソフト対策の取組内容	実施主体者	記載頁
31	I	水防災に関する説明会の開催	古河市	70
32	I	地区公民館等を利用した「防災講習会」の実施	上里町	81
33	I	出前講座を活用した講習会の実施	行田市	76
34	I	出前講座を活用した防災意識の講演会の実施	草加市	79
35	I	出前講座を活用した講習会の実施	白岡市	80
35-2	I	実施行政区防災講習会及び出前講座の実施	板倉町	33
36	I	自主防災組織や消防団の研修の実施	本庄市	77
37	I	災害対応研修「クロスロードゲーム」	館林市	75
38	I	災害・避難カード等作成モデル事業の実施	茨城県	88
38-2	I	千代田町自主防災組織連絡協議会の設立	千代田町	41
39	I	取手市避難所開設訓練	取手市	42
40	I	バスを使用した広域避難訓練の取組	加須市	61
40-2	I	全町民を対象とした避難訓練の実施	板倉町	34
41	I	河川管理者による出前講座や自治体職員、教職員へのリーダー研修	利根川上流河川事務所	15
42	I	小中学生を対象とした防災教育の実施	常総市	56
43	I	水防学校(水防災に関する学習)	板倉町	35
44	I	小中学生を対象とした防災教育の実施	鴻巣市	78
45	I	小中学生を対象とした防災教育の実施	栃木県	67
45-2	I	災害なんかには負けないぞ教室	明和町	38
45-3	I	防災教育の実施	板倉町	36
46	I	「こども利根川研究・活動発表会～川はともだち～」を開催	加須市	62
47	I	「治水の日」式典	加須市	63
48	I	防災講演会の開催	加須市	64
49	I	防災講演会の実施	佐野市	74
50	I	取手市防災講演会	取手市	43
51	I	市町村等と連携した水防災セミナーなどの開催	埼玉県	89
52	I	水害の基礎知識や避難行動について広報誌への掲載	我孫子市	85
53	I	カスリーン台風による災害から70年に向けた取組(リレーパネル展、リーフレット等)	利根川上流河川事務所	16
53-2	I	防災士養成事業補助金	明和町	39
54	J	国と地域住民による堤防点検	坂東市	60
54-2	J	水防団や地域住民、企業が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	市区町・企業・利根川上流河川事務所	17
55	J	第66回利根川水系連合・総合水防演習の開催	加須市・利根川上流河川事務所	65
56	J	野田市水防演習	野田市	83
57	J	関係機関が連携した実働水防訓練の実施	江戸川区	87
58	K,L	災害対策用機器の操作講習会の実施	市区町・利根川上流河川事務所	19



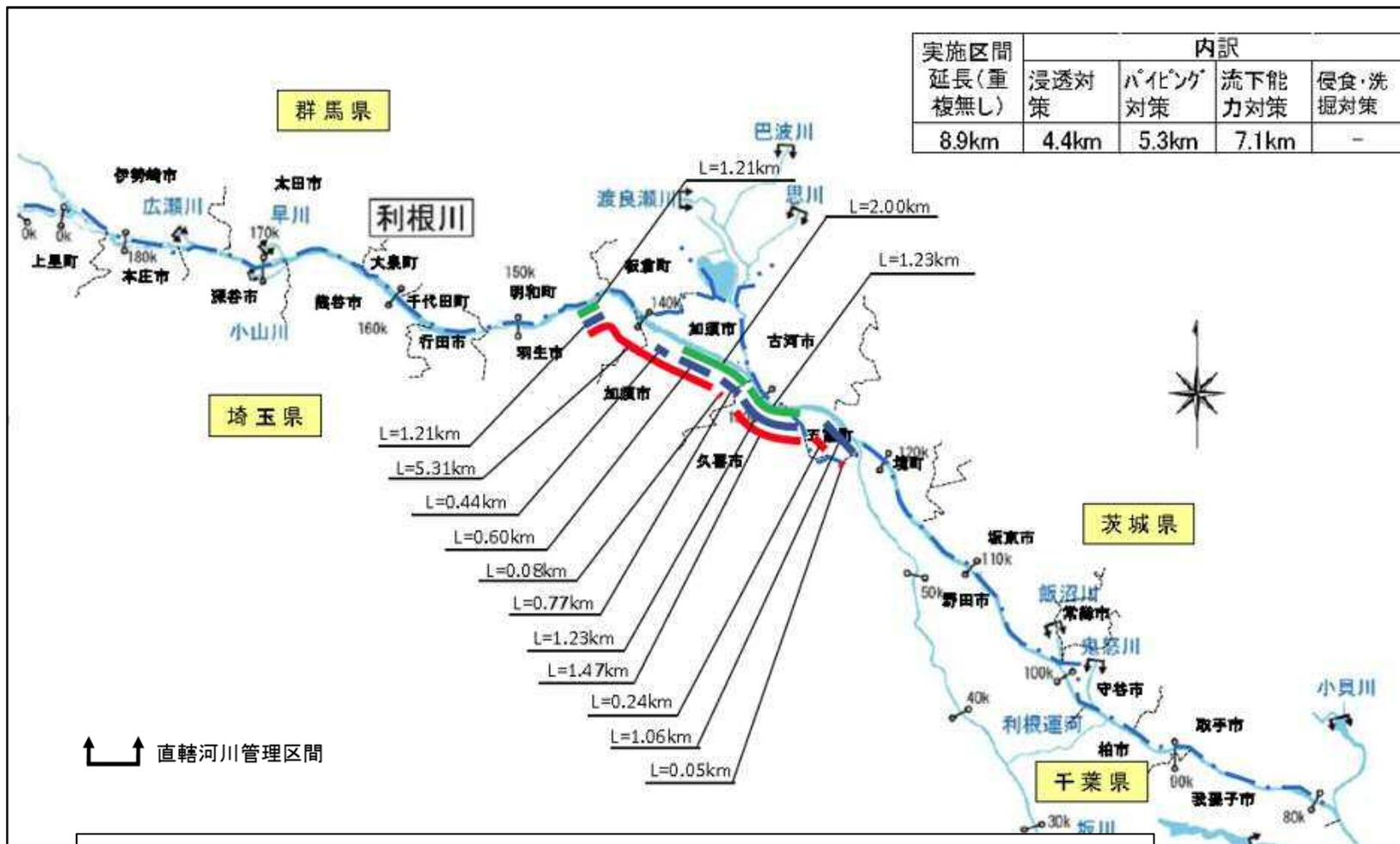
■浸透対策、流下能力対策、パイピング対策、侵食・洗掘対策

昭和22年9月洪水(カスリーン台風)をはじめとした既往洪水や、平成27年9月関東・東北豪雨を踏まえて設定した、堤防整備・河道掘削等の流下能力向上対策、浸透・パイピング対策、侵食・洗掘対策に関し、優先的に対策が必要な区間について対策を実施しています。

洪水を安全に流すためのハード対策 概要図<利根川上流>

凡例

- 浸透対策 (緑色)
- パイピング対策 (青色)
- 流下能力対策 (赤色)
- 侵食・洗掘対策 (紫色)



※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。  
 ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係で概要図と合致しない場合があります。  
 ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。

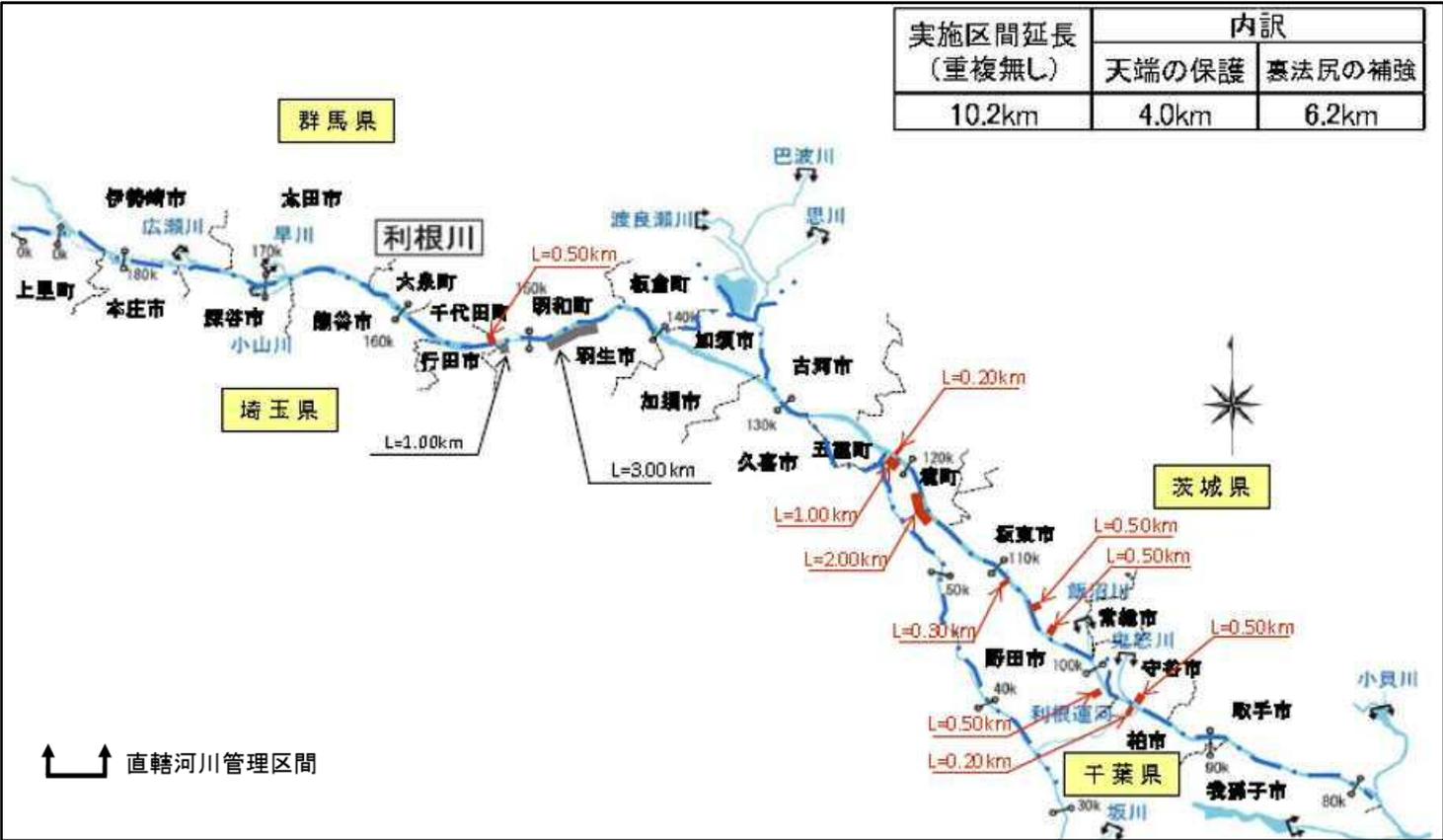
# ■堤防天端の保護、堤防裏法尻の補強

氾濫リスクが高いにも関わらず、当面の間、上下流バランス等の観点から堤防整備に至らない区間などについて、決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう、堤防構造を工夫する対策(堤防天端をアスファルト等で保護、堤防裏法尻をブロック等で補強)を実施しています。

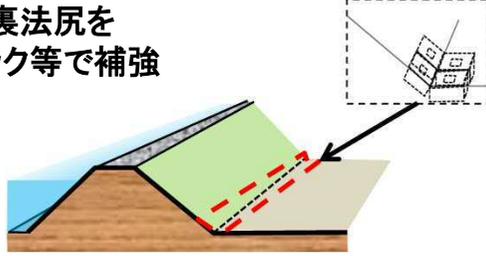
## 危機管理型ハード対策 概要図<利根川上流>

凡例		天端の保護
		裏法尻の補強

実施区間延長 (重複無し)	内訳	
	天端の保護	裏法尻の補強
10.2km	4.0km	6.2km

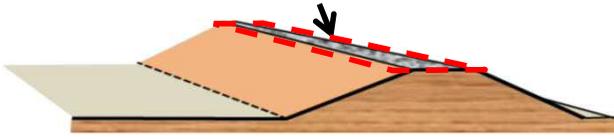


堤防裏法尻をブロック等で補強



対策イメージ図

堤防天端をアスファルト等で保護



対策イメージ図



施工前状況



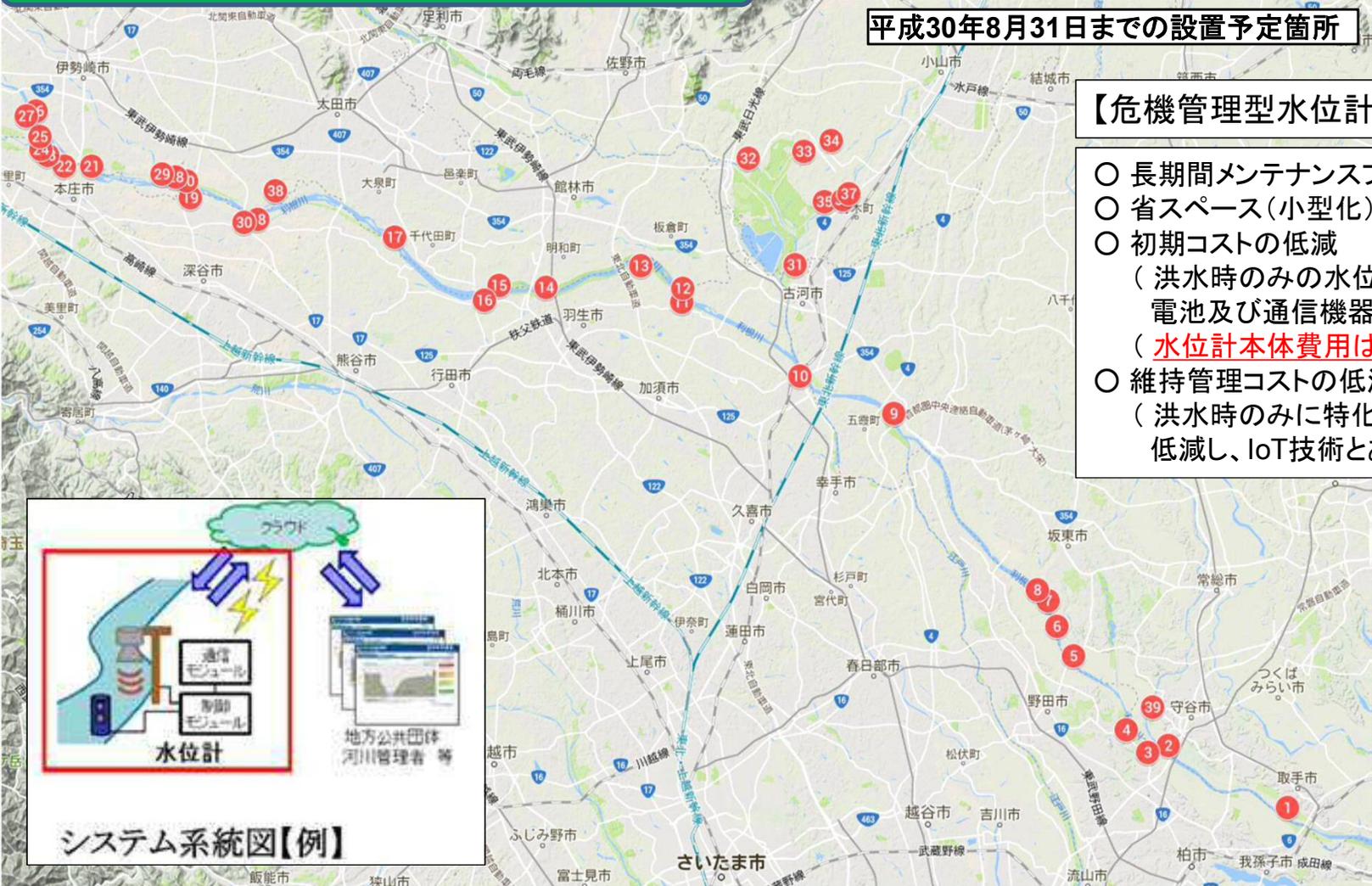
施工後状況

※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。  
 ※危機管理型ハード対策と併せて、住民が自らリスクを察知し、自主的に避難できるようなソフト対策を実施予定です。  
 ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係で概要図と合致しない場合があります。  
 ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。

■危機管理型水位計の整備

危機管理型水位計は、洪水時の水位観測に特化した低コストな水位計で、これまで水位計の無かった河川や地先レベルでのきめ細やかな水位把握が必要な河川への水位計の普及を促進し、水位観測網の充実を図ることができます。  
 利根川水系では、既設水位計の配置や現地状況等を踏まえて、188箇所での危機管理型水位計の配置を予定しており、利根川上流管内では、平成30年8月31日までに設置する箇所として、39箇所を選定しています。

危機管理水位計設置箇所図 <利根川上流>



平成30年8月31日までの設置予定箇所

【危機管理型水位計の特徴】

- 長期間メンテナンスフリー（無給電で5年以上稼働）
- 省スペース（小型化）（橋梁等へ容易に設置が可能）
- 初期コストの低減  
 （洪水時のみの水位観測により、機器の小型化や電池及び通信機器等の技術開発によるコスト低減）  
 （水位計本体費用は、100万円/台以下）
- 維持管理コストの低減  
 （洪水時のみに特化した水位観測によりデータ量を低減し、IoT技術とあわせ通信コストを縮減）

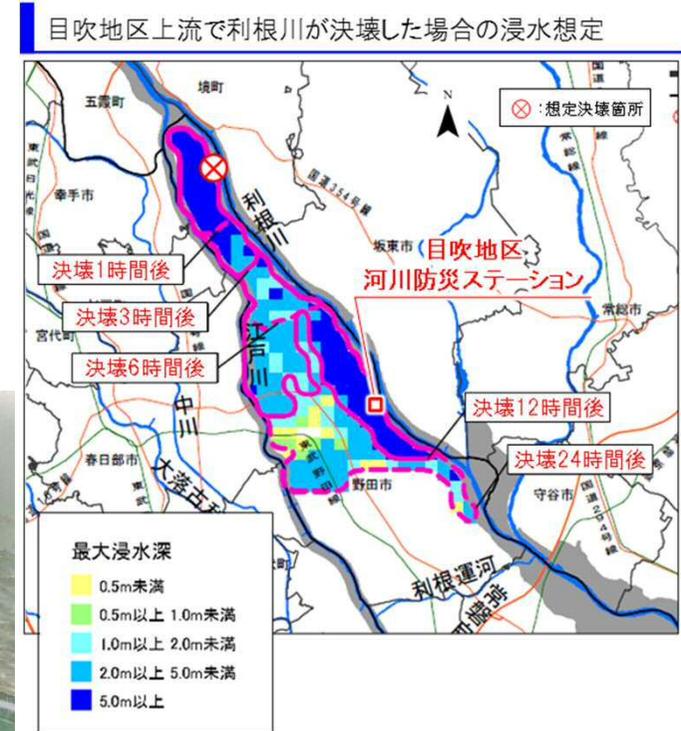
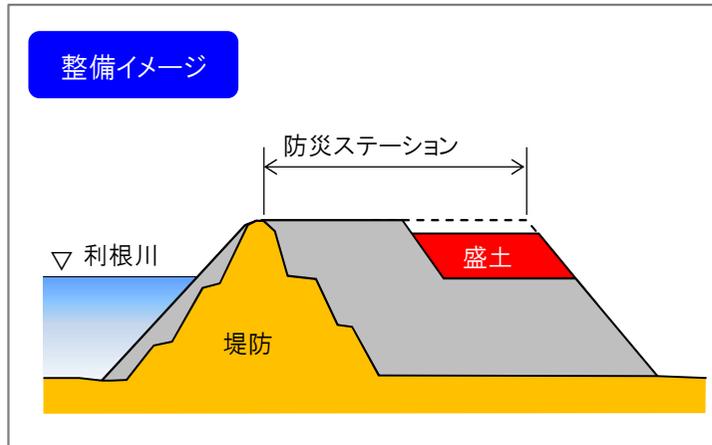


危機管理型水位計【例】



# ■目吹地区河川防災ステーションの整備

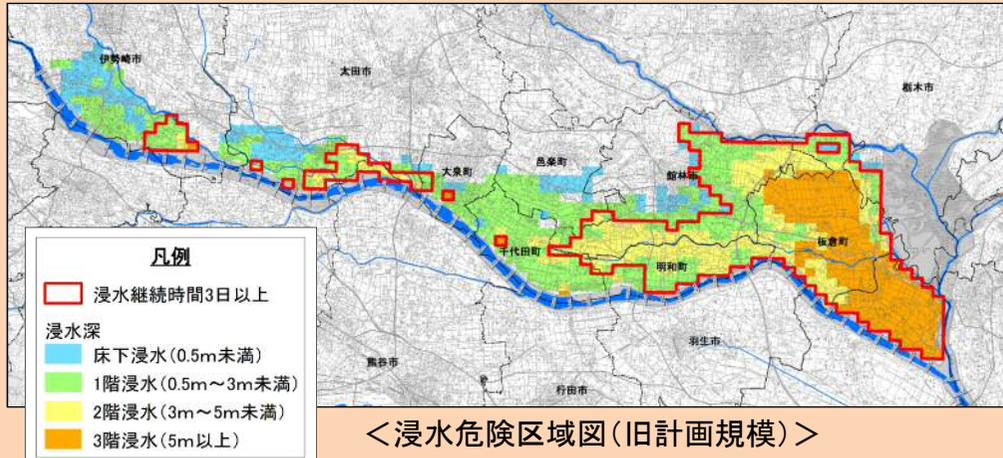
利根川上流部左岸ブロックは、堤防の比高差が大きく、家屋の流失・倒壊の恐れがあり、浸水深も大きくなることから、確実な立退き避難が必要な区域が広く存在するため①逃げ遅れた場合の緊急避難のための場所も必要である。  
 このため、河川防災ステーションや避難地盛土の整備を進めている。現在は千葉県野田市目吹地先において河川防災ステーションを整備中である。



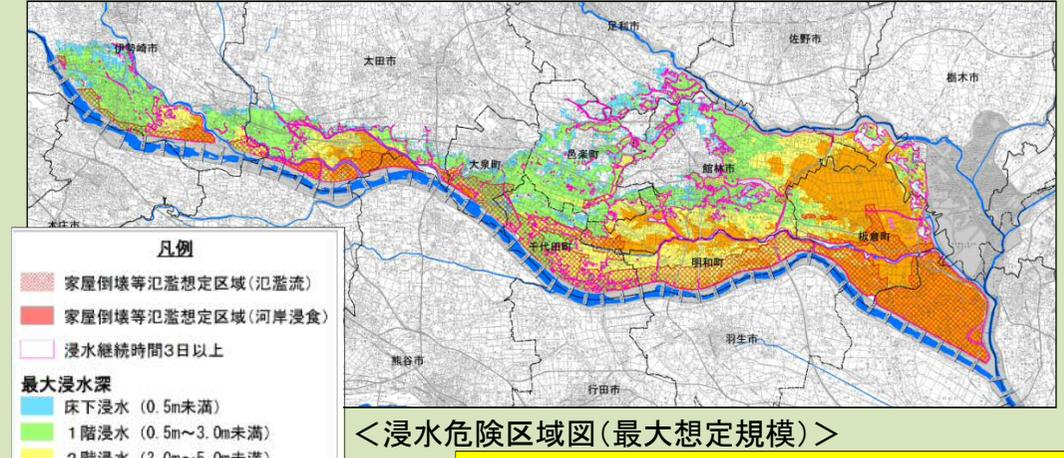
# ■立退き避難が必要な浸水危険区域情報の提供～避難対策重点地区(仮称)の設定～

利根川上流域では、堤防が決壊した場合、浸水深が3階以上に達したり、浸水が3日以上継続したりする可能性がある区域が数多く存在する。こうした区域では、避難が遅れると多数の人的被害が想定されることから、想定浸水深や浸水継続時間の関係から見て、立退き避難が必要と考えられる区域を「避難対策重点地区(仮称)」として設定し、自治体を実施する避難計画の見直しや排水施設の耐水化、緊急排水計画の策定のための基礎資料としていただく。

## 避難対策重点地区(仮称)の設定



【避難対策重点地区】(立退き避難必要区域)  
 ・浸水深3階以上の区域  
 ・または浸水深1階以上で浸水継続時間3日以上



【避難対策重点地区】(立退き避難必要区域)  
 ・家屋倒壊等氾濫想定区域  
 ・または浸水深3階以上の区域  
 ・または浸水深1階以上で浸水継続時間3日以上



## ■緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信

国土交通省では、洪水時に住民の主体的な避難を促進するため、緊急速報メールを活用した洪水情報※1のプッシュ型配信※2を開始している。

平成30年5月より、対象河川を国が管理する洪水予報河川8水系37河川全てに拡大し、自治体や携帯事業者との調整が整った173市町村に配信する。

利根川上流域では、利根川、渡良瀬川、思川、巴波川が対象となる。

※1 「洪水情報」とは、洪水予報指定河川の氾濫危険情報(レベル4)及び氾濫発生情報(レベル5)の発表を契機として、住民の主体的な避難を促進するために配信する情報。

※2 「プッシュ型配信」とは、受信者側が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組み。



※今回のメール配信は、携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール」のサービスを活用して洪水情報を携帯電話ユーザへ周知するものであり、洪水時に住民の主体的な避難を促進する仕組みとして国土交通省が実施するものである。

洪水情報のプッシュ型配信イメージ

### 利根川上流域で対象となる河川

河川名	観測所名
利根川	八斗島、栗橋、芽吹橋
渡良瀬川	古河
思川	乙女
巴波川	中里

### 配信する情報

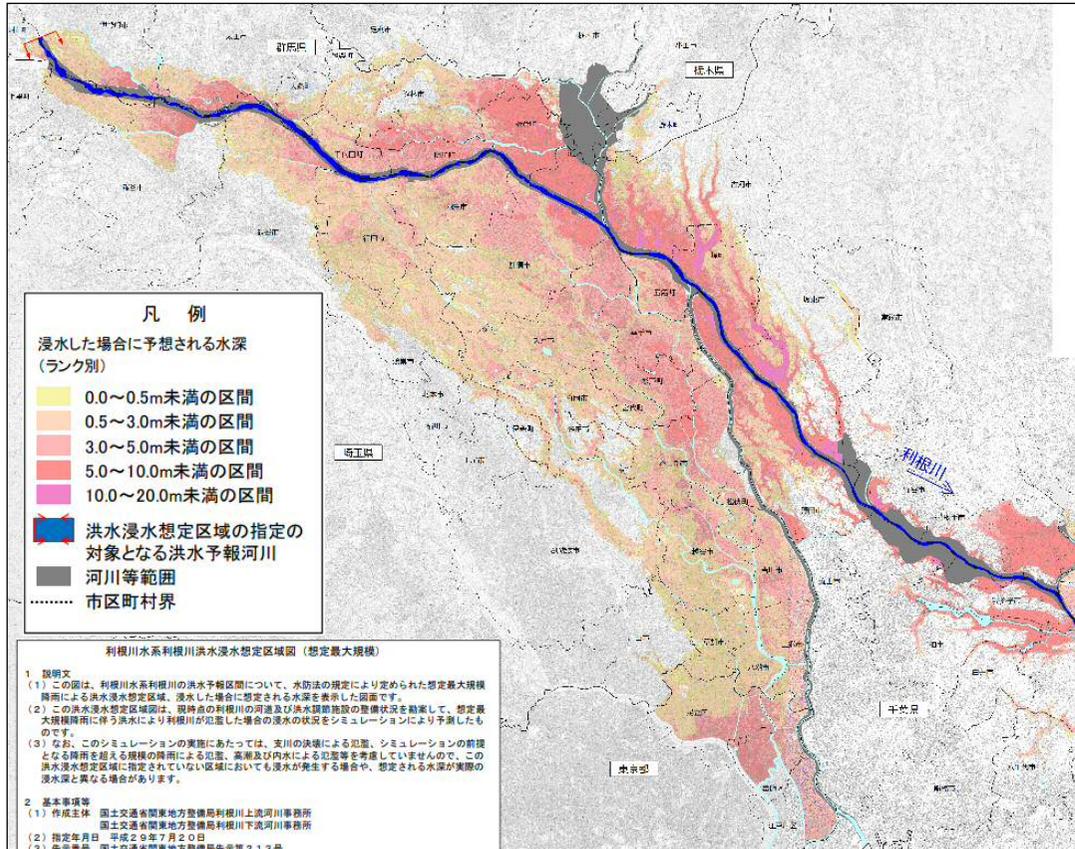
配信対象河川における「河川氾濫のおそれがある（氾濫危険水位に到達した）情報」及び「河川氾濫が発生した情報」を配信

段階	配信情報	配信契機
①	河川氾濫のおそれがある情報	配信対象河川の基準観測所の水位が氾濫危険水位に到達し、氾濫危険情報が発表された時
②-I	河川氾濫が発生した情報 (※河川の水が堤防を越えて流れ出ている情報)	配信対象河川の基準観測所の受持区間で河川の水が堤防を越えて流れ出る事象が発生し、氾濫発生情報が発表された時
②-II	河川氾濫が発生した情報 (※堤防が壊れ河川の水が大量に溢れ出ている情報)	配信対象河川の基準観測所の受持区間で堤防が壊れ、河川の水が大量に溢れ出る事象が発生し、氾濫発生情報が発表された時

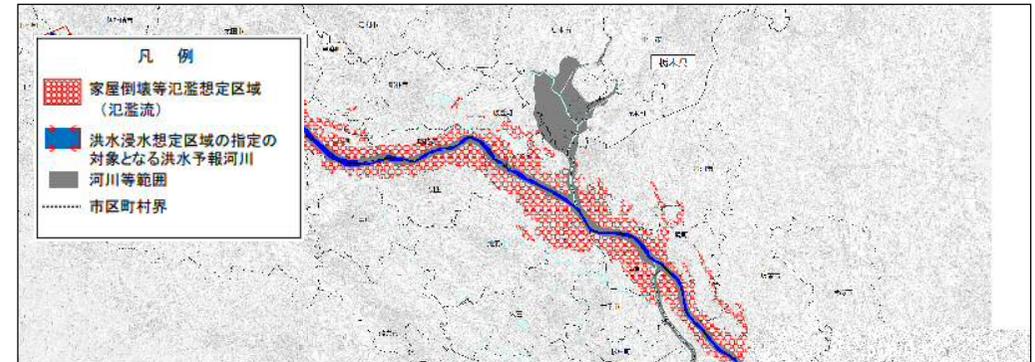
# 想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図の公表

平成29年7月に、減災の取組の一環として、市区町長による避難勧告等の適切な発令や住民等の主体的な避難に役立つよう、利根川水系利根川、広瀬川、小山川、早川、思川、巴波川及び渡良瀬川が氾濫した場合に浸水が想定される区域、想定される水深及び浸水継続時間を示した「洪水浸水想定区域」を水防法第14条の第1項及び同条第3項の規定に基づき指定・公表し、関係市区町へ通知した。併せて、一定の条件下において家屋の倒壊・流出をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域として、「家屋倒壊等氾濫想定区域」を公表した。

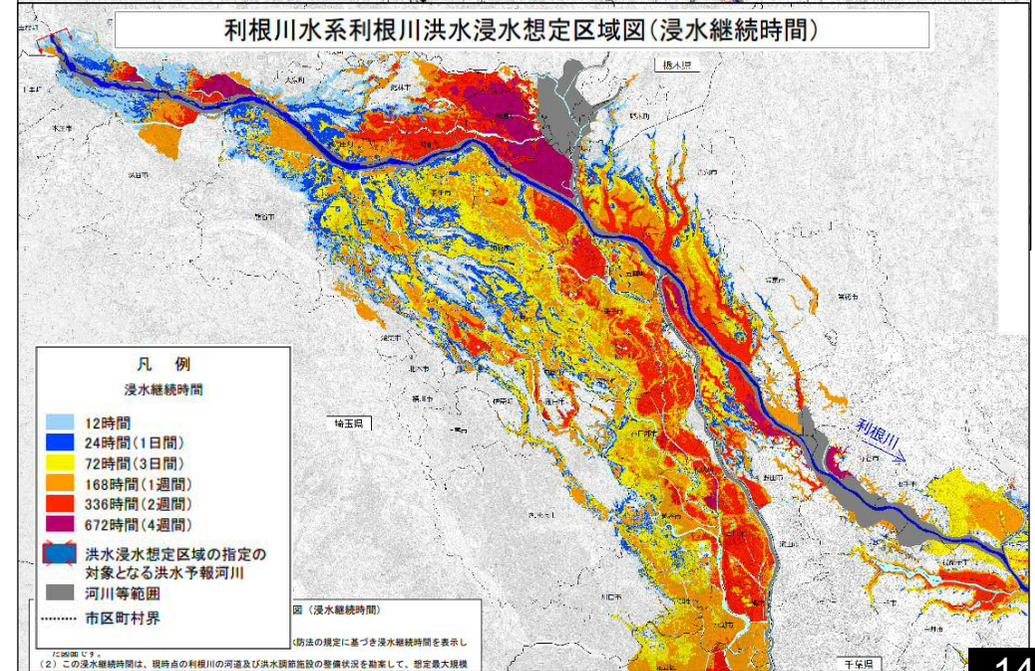
利根川水系利根川洪水浸水想定区域図(想定最大規模)



利根川水系利根川洪水浸水想定区域図(家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流))



利根川水系利根川洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)

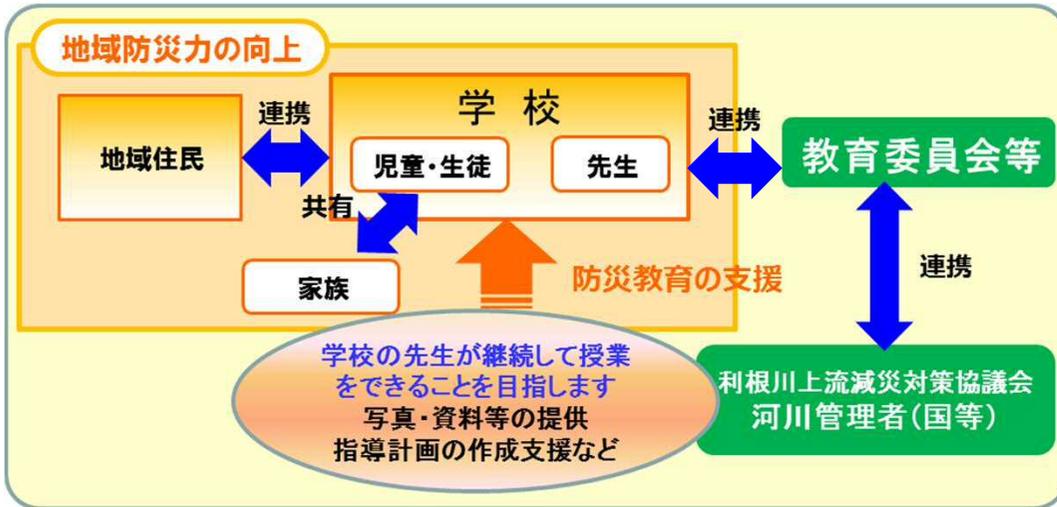


1)防災教育や防災知識の普及

■学校教育関係者と連携し、防災教育に関わる指導計画等の作成支援

学校教育関係者と連携し、防災教育に係る指導計画や社会科の副読本等の作成支援を行っていく。

◆防災教育における支援体制(イメージ)



防災教育の支援(例)

➤ 指導計画や市区町の副読本の作成支援



(小学校の3年生と4年生で使用する社会科副読本：板倉町)

➤ 教職員リーダーの出前講座や防災体験等支援



(出前講座)



(降雨体験車)

防災教育の促進

- 平成29年度に国管理河川の全ての129協議会において、防災教育に関する支援を実施する学校を教育関係者等と連携して決定し、指導計画の作成支援に着手
- 平成30年度末までに、国の支援により作成した指導計画を、都道府県管理河川を含む協議会に関連する市町村の全ての学校に共有

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
平成28年度より、28校において指導計画の作成支援を先行して実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度中に、国管理河川の全ての129協議会において、防災教育に関する支援を実施する学校を教育関係者等と連携して決定し、平成30年度末までに、防災教育に関する指導計画を作成できるよう支援</li> <li>国の支援により作成された指導計画を都道府県管理河川を含む協議会に関連する市町村の全ての学校に共有</li> </ul>		引き続き、防災教育の実施を支援		
学習指導要領改訂 平成29年3月31日	(平成29年3月31日に改訂された新学習指導要領の周知・徹底・移行期間)			(平成29年3月31日に改訂された新学習指導要領の全面実施)	

※「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画の主な取組一つ

■カスリーン台風による災害から70年に向けた取組(リレーパネル展、リーフレット等)

平成29年はカスリーン70年であり、地域の方々に水害の恐ろしさ、防災避難の重要性を改めて認識していただくための取組として、ポスターやパンフレット(一般向け／子供向け)を作成した他、利根川上流カスリーン台風実行委員会構成自治体(49市区町)においてリレーパネル展を開催しています(開催期間:平成29年4月～12月)。



カスリーン70年ポスターの作成



自治体リレーパネル展オープニングセレモニーの開催状況(於:加須市)

**河川情報や氾濫情報を的確に入手することが大事です。**

カスリーン台風による被害の概要

カスリーン台風による被害の概要

カスリーン台風による被害の概要

**平成29年はカスリーン台風による大被害から70年**

カスリーン台風による被害の概要

カスリーン台風による被害の概要

カスリーン台風による被害の概要

**洪水から身を守るため、今、しなければいけないこと**

平成27年は異常雨が決壊、70年前は利根川が決壊しました。

堤防では防ぎきれない大洪水がいつ発生してもおかしくありません。

**避難勧告等が発令されたら速やかに避難行動をとってください。**

避難行動の目安

避難行動の目安

避難行動の目安

**もしも、今カスリーン台風が来たら避難が怖いなら...**

もしも、今カスリーン台風が来たら避難が怖いなら...

もしも、今カスリーン台風が来たら避難が怖いなら...

**安全に避難するためのにも、色々な情報を集めておこう**

安全に避難するためのにも、色々な情報を集めておこう

安全に避難するためのにも、色々な情報を集めておこう

**いつかまた来る。70年前に起こったカスリーン台風による大洪水**

いつかまた来る。70年前に起こったカスリーン台風による大洪水

いつかまた来る。70年前に起こったカスリーン台風による大洪水

カスリーン台風関連リーフレットの作成

## ■水防団や地域住民、企業が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施

洪水時等には迅速、かつ、的確な水防活動が必要とされることから出水期前に重要水防箇所への河川巡視を行います。H30年度は、水防団だけではなく、地域住民、建設業者にも参加頂き、**重要水防箇所等の共同点検を実施**しました。

### ①合同巡視(共同点検)

合同巡視では水防団、施行業者等と河川管理者が合同で巡視を行い、水防活動のうえで特に注意を要す箇所等を確認し、洪水時の適切な水防活動を行えるよう備えるとともに、地域の水防意識の向上を図りました。



(川俣出張所管内)



(大利根出張所管内)



(藤岡出張所管内)



(古河出張所管内)



(八斗島出張所管内)



(目吹出張所管内)



(守谷出張所管内)

#### ■点検期間

- 八斗島出張所管内 6 / 7、6 / 15
- 川俣出張所管内 6 / 4、6 / 8
- 大利根出張所管内 6 / 5、6 / 8
- 目吹出張所管内 6 / 5、6 / 6
- 守谷出張所管内 6 / 5
- 藤岡出張所管内 6 / 4
- 古河出張所管内 5 / 3 1
- 遊水池出張所管内 6 / 8

■点検者：河川管理者（国、県）、各市町、消防団、建設業者等

## ②地域住民参加による加須市共同点検について

水防災の意識の共有・再確認を図るため、市町と連携し、地域住民参加による共同点検を実施しました。

- 日時 平成30年6月2日(土)
- 場所 利根川左岸135.7k~136.5k 北川辺水防拠点~埼玉大橋
- 参加者 加須市地域住民、加須市(治水課・消防)、加須市建設業 約40名



【点検状況】



【説明状況】



【水防拠点工事説明状況】

### 【参加された住民の方からの主な質問】

「昨年度の洪水はどこまで水位が上がったのか」

「水防拠点の工事の土砂はどこから持ってきているのか」

などの積極的な質問がございました。

## ■ 災害対策用機器の操作講習会の実施

○国土交通省では、排水ポンプ車や照明車などの災害対策用機器を保有し、各地の災害に対応している。これらの機器は、国土交通省の管理区間だけでなく、平成23年に発生した「東日本大震災」や昨年9月に発生した「関東・東北豪雨」において、沿川の自治体等からの派遣要請に基づき自治体でも活躍している。

○災害対策用機器の操作講習会は、利根川上流河川事務所、渡良瀬川河川事務所、下館河川事務所の各事務所職員、沿川自治体職員及び各事務所で災害復旧協定を締結している会社(災害復旧協定会社)を対象に、災害対策用機器の設置、操作などを習得するために、平成7年度から毎年実施している。平成29年度は、6月、7月に渡良瀬遊水池において実施した。

- 開催日程：平成29年6月15日(木)、16日(金)、7月24日(月)
- 開催場所：渡良瀬遊水池
- 受講者：3事務所職員等 25名、20自治体 52名、災害協定業者 172名
- 受講機器：対策本部車、待機支援車、排水ポンプ車、照明車、Ku-SAT II



対策本部車講習状況



Ku-SAT II 講習状況



照明車講習状況



排水ポンプ車講習状況

## ■市民生活総合支援アプリMorinfo(もりんふお)の活用



# もりんふお Morinfo

【平成30年1月本稼働】



市民生活の利便性向上と安心安全なまちづくりを進めるため、双方向型の新しい情報発信ツールとして運用しています。



もりやレポートの機能を活用し、平成29年10月に発生した台風21号後の河川状況を職員間の情報共有ツールとして活用。台風による倒木等の被害・対応状況は、Morinfoで市民に公開しています。



もりやレポートは、スマートフォン等の端末のカメラとGPS機能を活用し、市内の不具合箇所を市役所に通報するシステムです。投稿内容はレポートマップで誰でも確認できます。

子育て応援・ごみカレンダー・教育・広報・防災防犯情報などの市政情報を総合的に配信しています。なお、防災機能については、今年度中に大幅なバージョンアップを予定しています。

# 命を守る

## 境町の防災・減災の 取組について



平成30年6月22日  
減災協議会@さいたま新都心

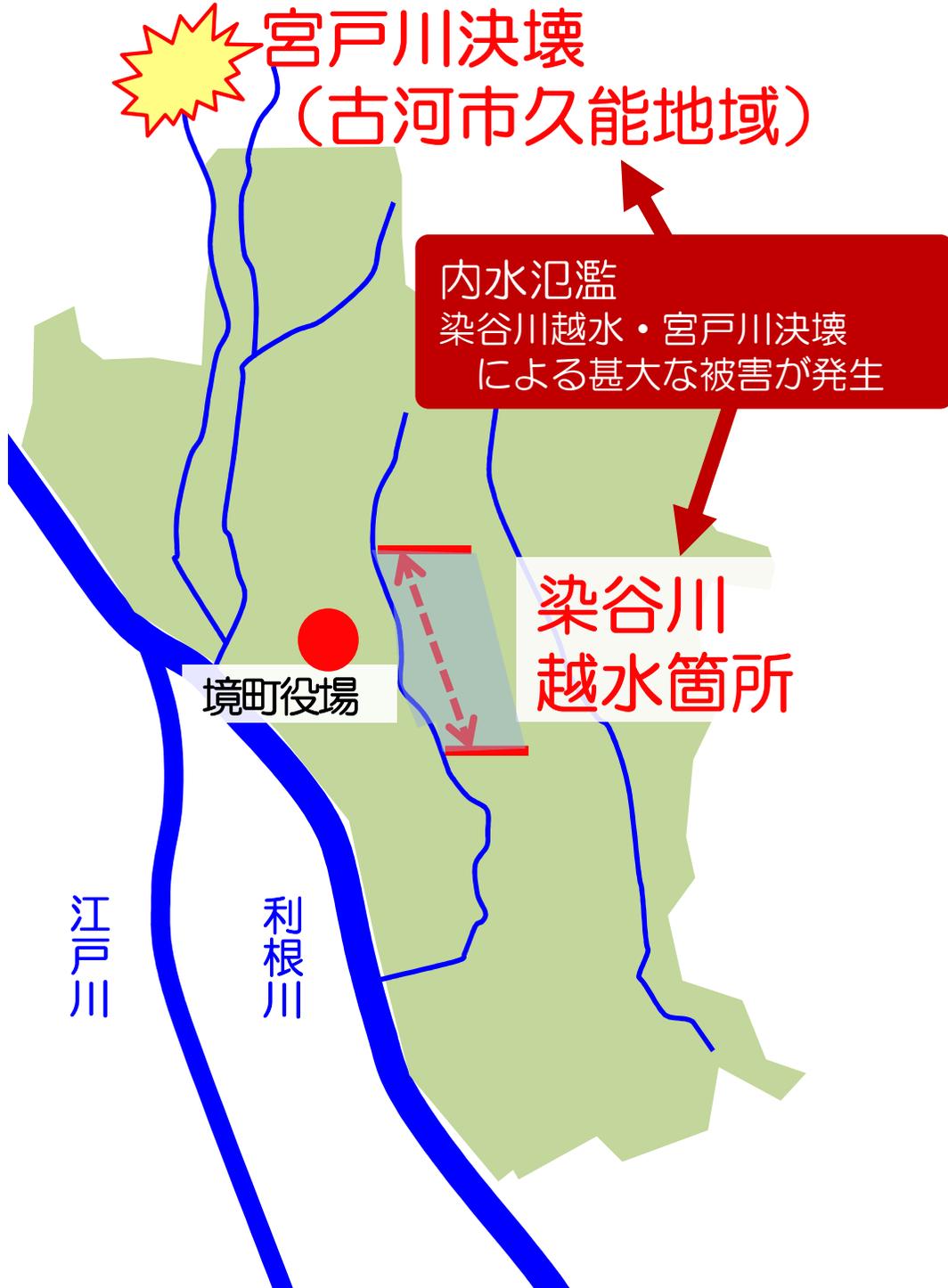
境町役場防災安全課





- **ハード・ソフト両面  
整備で洪水被害者  
ゼロを目指す**
- **全国に先駆けた  
最新の取組**

# 契機 平成27年9月関東・東北豪雨被害



人的被害	死亡	1名
	負傷者	3名

避難勧告	637世帯	1,600人
------	-------	--------

避難準備情報	1,697世帯	4,949人
--------	---------	--------

災害廃棄物	851トン
-------	-------

被害総額：約 **20** 億円





平成27年9月  
関東・東北豪雨災害



翌 10月  
新潟県三条市・見附市視察研修



水害発生 of 翌月に、減災・防災先進地の三条市・見附市を視察訪問し、参考に、素早く減災・災害対応を進める

ソフト面整備

ハード面整備



## ソフト面整備

### 広域避難



平成26年6月  
建設業協会と古河・境・五霞  
坂東災害時における**相互応援**  
に関する協定締結



平成28年6月  
坂東総合高校と**広域町外**  
避難所覚書締結



平成28年12月  
坂東総合高校と**合同**  
避難訓練実施



平成29年10月  
総和工業高校と**広域**  
町外避難所覚書締結



平成29年度  
「**広域避難共同調査研究**  
事業」実施

### 防災情報



平成26年度  
「まるごとまちごとハ  
ザードマップ」作成



平成28年4月  
関東・東北豪雨被害  
を受けハザードマッ  
プ改定



平成29年～  
**防災アプリ開発**・  
実証実験開始



平成30年6月～  
防災アプリ「**スマートメ**  
**ディア**」導入開始



平成30年度  
高齢者向けIoT防災  
システム検討開始



平成30年度  
要配慮者リストに伴  
う支援要領強化

### 防災意識向上



平成29年10月  
東京大学片田教授  
防災講演会



平成30年度  
子どもと防災リーダ  
ー向け防災講演会



平成29年10月  
境地区総合防災  
訓練実施



平成30年10月  
長田地区総合防  
災訓練実施予定



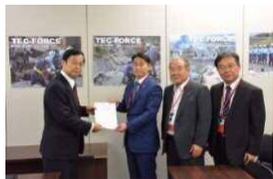
平成29・30年度  
東京大学片田教授  
広域避難計画策定



平成30年度  
「**逃げどきマップ**」  
作成

## ハード面整備

### 避難施設整備



平成27・28・29年度～  
**河川防災ステーション**  
国へ要望



平成27年8・9月  
**土壌ステーション**設置



平成28年4月  
町内5小学校に**防災倉庫・災害用トイレ**を設置



平成30年6月末  
**水害避難タワー**完成  
予定



平成29年度  
PFI方式定住促進住宅  
建設(**屋上に避難場所**)

### 防災・減災 対策



平成29年度～32年度  
**雨水排水計画**策定  
バイパス管設置開始



平成29年度  
**梁谷川冠水対策**計画策定・調整地選定

検討中



モバイル・レスキュー・プラットフォーム(コンテナハウスの災害活用)



平成29年度  
**水素カー**導入。災害時は電源として活用

## 例



## 防災アプリ「スマートメディア」

- 従来のアナログ式防災無線にかわる情報伝達手段
- Push型配信により、確実にリアルタイムな情報伝達を実現
- 一人ひとりの手元に通知が届き、繰り返し再生が可能。聞き逃しを予防し、最適な避難手段を伝達できる。
- 位置情報取得により、要救助者をピンポイントで救助可能
- 多言語対応が可能

### 「スマートメディア」の課題

- スマートフォンを持ってない住民へのフォローをどうするか
- 高齢者など、スマホ・タブレット端末の操作が不慣れな層への対応について

### IoT機器を活用した情報弱者への対応を検討

LED電球スピーカ



シニア向けIoTデバイス  
「MAGOボタン」



先行導入例  
佐賀県みやき町

- スマホ・タブレット端末に替わる防災連絡システムの導入  
例：スマートスピーカー、LED電球スピーカ  
PLC (コンセントからネットワーク接続)の活用
- 実証実験を通じた課題の洗い出し・問題点フィードバックを行い精度をあげていく



## 例

## モバイルレスキューパーク

企業版ふるさと納税を活用したモバイル・レスキュープラットフォームを全国に先駆けて形成。新しい災害時対応の在り方を「境町モデル」として構築し全国展開する。

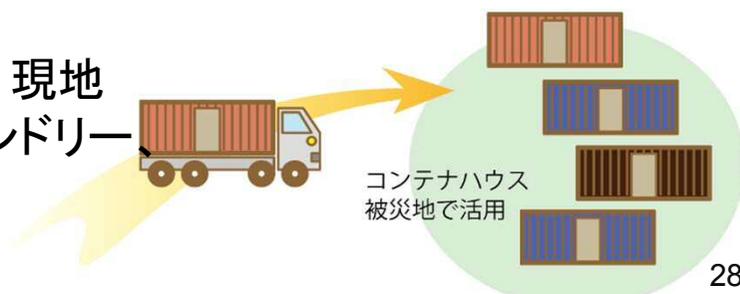


### モバイルレスキューパークとは

基礎緊結されず、随時・任意に移動できるコンテナやトレーラーハウス(車両)から構成される**可動型防災設備**

### コンテナハウスのメリット

- 一般のトレーラーハウスに比べ、設置場所の確保や搬送が容易
- 積み上げが可能であることから、2階建てや3階建てといった高度利用が可能
- 遠隔地災害にはトレーラーハウス・コンテナハウスを派遣、現地指揮支援拠点、福祉避難所等(宿泊、シャワー・トイレ、ランドリー、災害広報スタジオなどに活用。



## 例



## 境町地域河川防災ステーション

- 平常時・災害時・広域後方支援の**3モードに対応できる**水防センター施設
- 「管理棟・倉庫」「道の駅」「モバイルレスキューパーク(可動式)」の**複合施設**

### 「道の駅」 圏央道スマートインター・高速道路利便施設

- **スマートインター直結の「道の駅」の設置**により、圏央道菖蒲⇄江戸崎間76キロのPA空白地帯を埋める29
- 平常時に利用料を得ることで、水防センターの維持管理費に充当

### 首都直結型の防災拠点

- Pasar守谷につぐ首都直結の防災拠点として、首都圏直結型地震など広域災害が発生した際に活用

### 充実した避難設備を全国の被災地に派遣が可能

## ■水害避難タワーの建設

### 建設の目的

- 1 水没しない**災害対策本部**として活用
- 2 人口密集地の**逃遅れ者の緊急避難場所**として活用
- 3 水没しない**非常用電源の確保**（現行：地下に設置）
- 4 **水没しない防災倉庫**設置

### 水害避難タワーイメージ図



30年度月上旬完成予定

■スマートフォンを活用した新たな情報伝達手段(クレーバメディア)

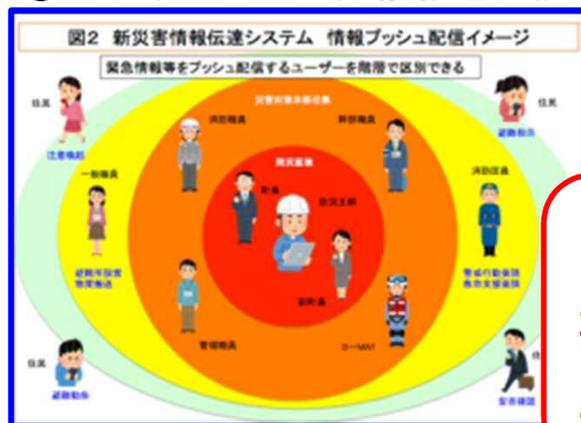
インターネットラジオを基盤とした新たな情報伝達手段について29年度実証実験の成果を踏まえ、30年度に導入予定

防災無線(個別ラジオ)整備: 約5億円 → イニシャルコスト: 境町0円  
ランニングコスト: 120万円/年

① 「音声」「文字」「多言語」配信



② 対象ごとに必要情報を配信



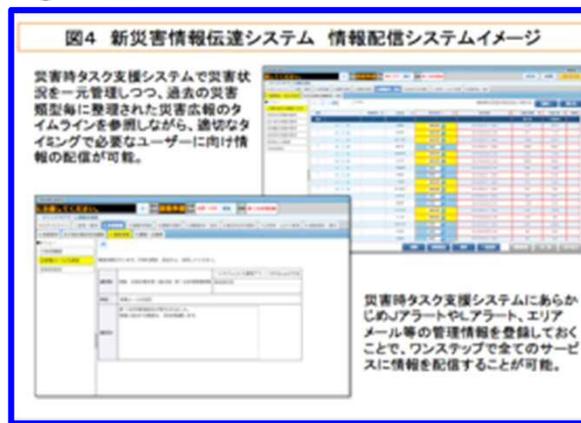
③ 複数の伝達手段と連動



④ リプライ画面から情報返信



⑤ 登録ワンステップ情報配信



⑥ ユーザー位置の特定



■広域避難のための避難場所確保に関する取組

「広域避難場所確保に関する覚書」の締結

利根川が決壊した場合、町の85%以上が浸水域であるため、町外の広域避難場所の確保が必要

覚書締結

平成29年10月24日  
古河市の総和工業高校とも広域町外避難所として「覚書」を締結



広域避難場所位置関係



平成28年6月17日  
茨城県立坂東総合高校を境町の広域町外避難所として「覚書」を締結

覚書締結



平成28年12月8日  
高校の防災訓練に併せ境地区区長会15名を主体とし「合同広域避難訓練」実施

避難訓練



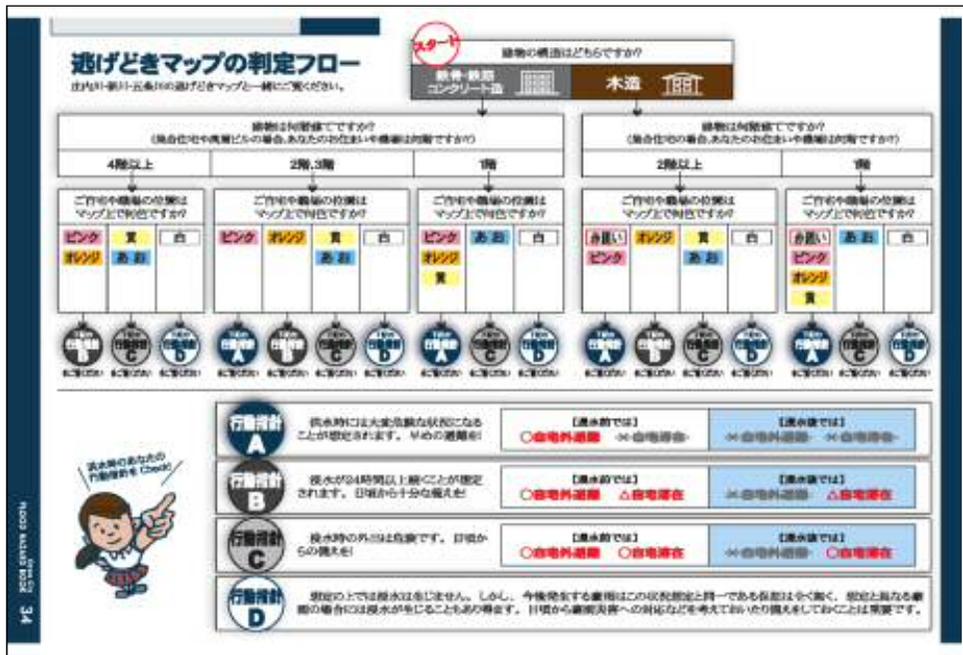
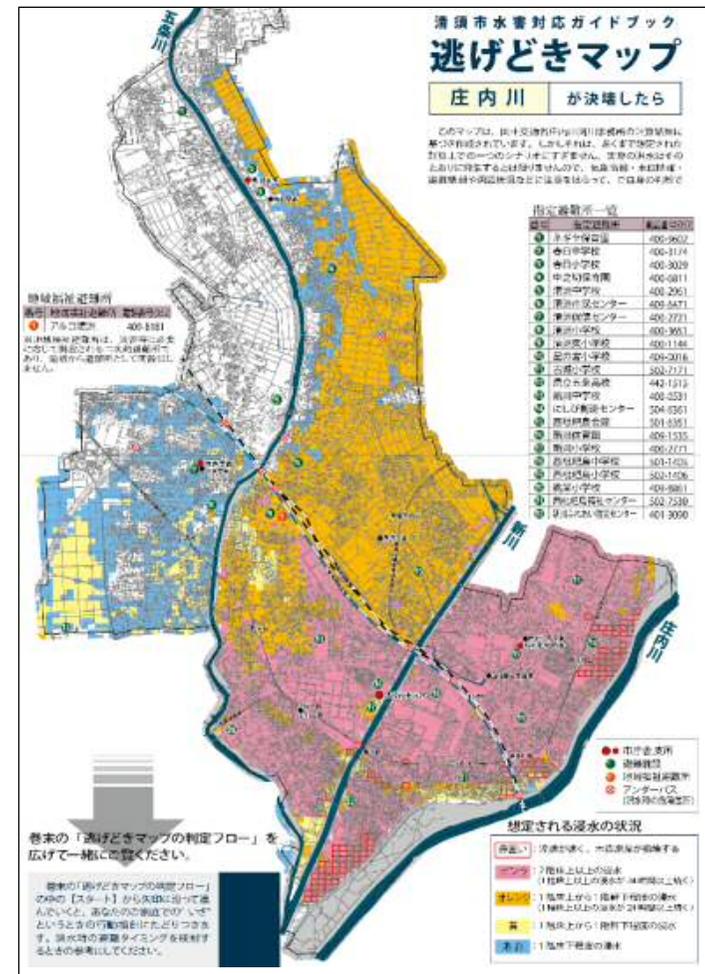
「逃げときマップ」の作成

29～30年度の「水害に係る広域避難」に関する調査研究事業の成果を反映



30年度、各地区ごとの特性を踏まえた「逃げときマップ」を作成

逃げ時マップイメージ図



■内水氾濫を踏まえた「利根川タイムライン」の作成

-19h

◇大雨警報・洪水警報発表

-20h #1判断時期

《広域避難の準備の必要性》

-18h 水防団待機水位到達  
栗橋水位観測所(水位2.7m)

#2判断時期

《広域避難の可能性》

-16h

#1災対本部会議

▶① #3判断時期

《境地区等の広域避難の要否》

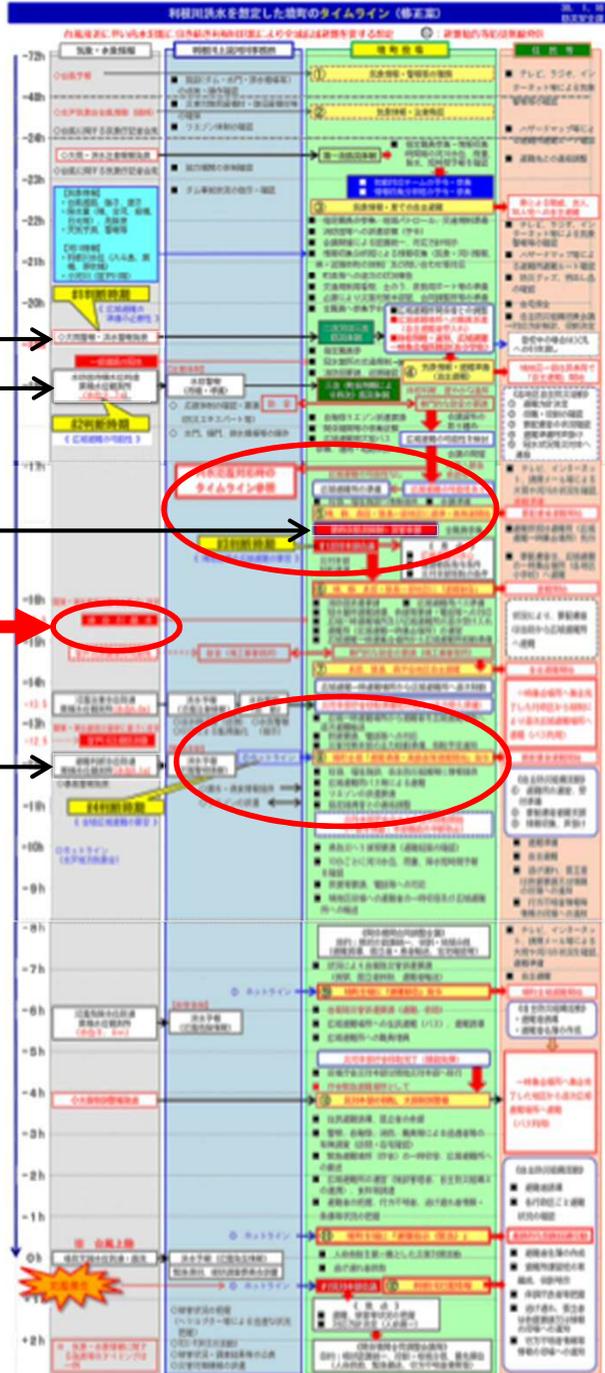
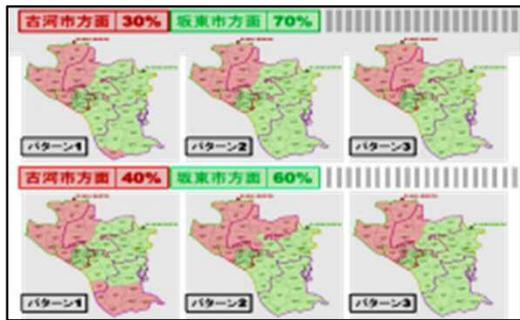
内水氾濫発生

避難判断水位到達  
栗橋水位観測所(水位8.1m)

▶② #4判断時期

《全域広域避難の要否》

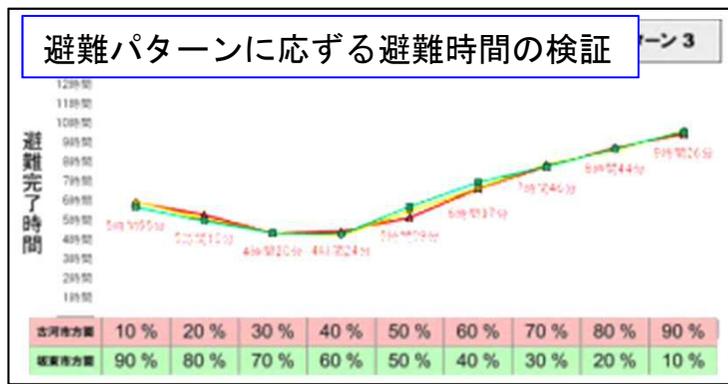
分散避難パターンの検討



広域避難までの  
決心が2段階

▶① 内水氾濫による避難  
経路途絶前に一部地域  
に対する広域避難勧告

▶② 利根川の水位等に基づき町全域に対する広域  
避難勧告



## ■実施行政区防災講習会及び出前講座の実施



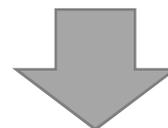
○具体的取組： 行政区防災講習会及び出前講座

○実施概要

職員が講師を務め、毎年度の本格的な出水期前の時期（5月～7月）に、住民を対象とした洪水防災に関する講習会を行政区単位で開催。

また、各種団体の希望により出前講座を実施。

- ・ 地域防災力向上への取り組み
  - ・ 洪水における“犠牲者ゼロ”に向けた対応策
- 平成24年度から『板倉町洪水防災DVD』



課題・解決方法内容の進展

平成27年度から『板倉町洪水防災DVD<広域避難編>』

板倉町特有の条件での犠牲者ゼロに向けた  
“進化した課題”

- ・ 洪水時はどうしたらよいの
- ・ いつ避難を開始したらよいの
- ・ 車による避難の危険性とは

「洪水防災DVD」と「動くハザードマップ」を用い、正しい洪水リスクと適切な洪水時の対応策についての理解を目的としている。

【平成29年度実績】 実施回数 16回 参加者合計 455名

## ■全町民を対象とした避難訓練の実施

○具体的取組： 全町民を対象とした避難訓練

○実施概要

目的 町民の防災意識の向上を促し、災害時に一人ひとりが自分の命を守るための適切な行動をとれるようにするだけでなく、自主防災組織が機能して地域住民同士が助け合う行動（共助）をとれるよう、実践的な訓練を行う。

実施内容

- 5:00～ 災害対策本部連絡登庁訓練
- 5:30～ 職員招集訓練・水防団員招集訓練
- 6:30～ 福祉避難所及び避難所開設訓練
- 6:45～ 災害時要配慮者避難支援訓練
- 7:15～ 自主防災組織による情報伝達訓練
- 7:30～ 住民避難訓練
- 8:30～ 未避難者安否確認訓練

【平成30年度実績】

実施日：平成30年6月3日(日)

実施場所：指定避難所 等

参加人数：災害時要配慮者避難支援訓練

参加者 34組 102名

住民避難訓練

参加者 2,038世帯 2,599名



災害時要配慮者避難支援訓練（応急担架搬送）



住民避難訓練

## ■水防学校(水防災に関する学習)

### ○水防学校(水防災に関する学習)

#### ○実施概要

小学4年生を対象として、水防災に対する理解と関心を高めるため、見て、聞いて、体験して学ぶことのできる防災教育を実施し、災害時には、自らの安全を確保するための行動ができるようにすることで、地域の防災力向上を図る。

#### ○実施経緯と実績

- ・平成22年度 町内小学校(1校)の4～6年生とその保護者、自主防災組織の代表者を対象に開催
- ・平成23年度 町内全小学校(4校)の4年生を対象として開催  
以降、毎年度町内全小学校の4年生を対象に開催
- ・平成30年度 10月開催予定



流域を知る：利根川上流河川事務所職員による説明

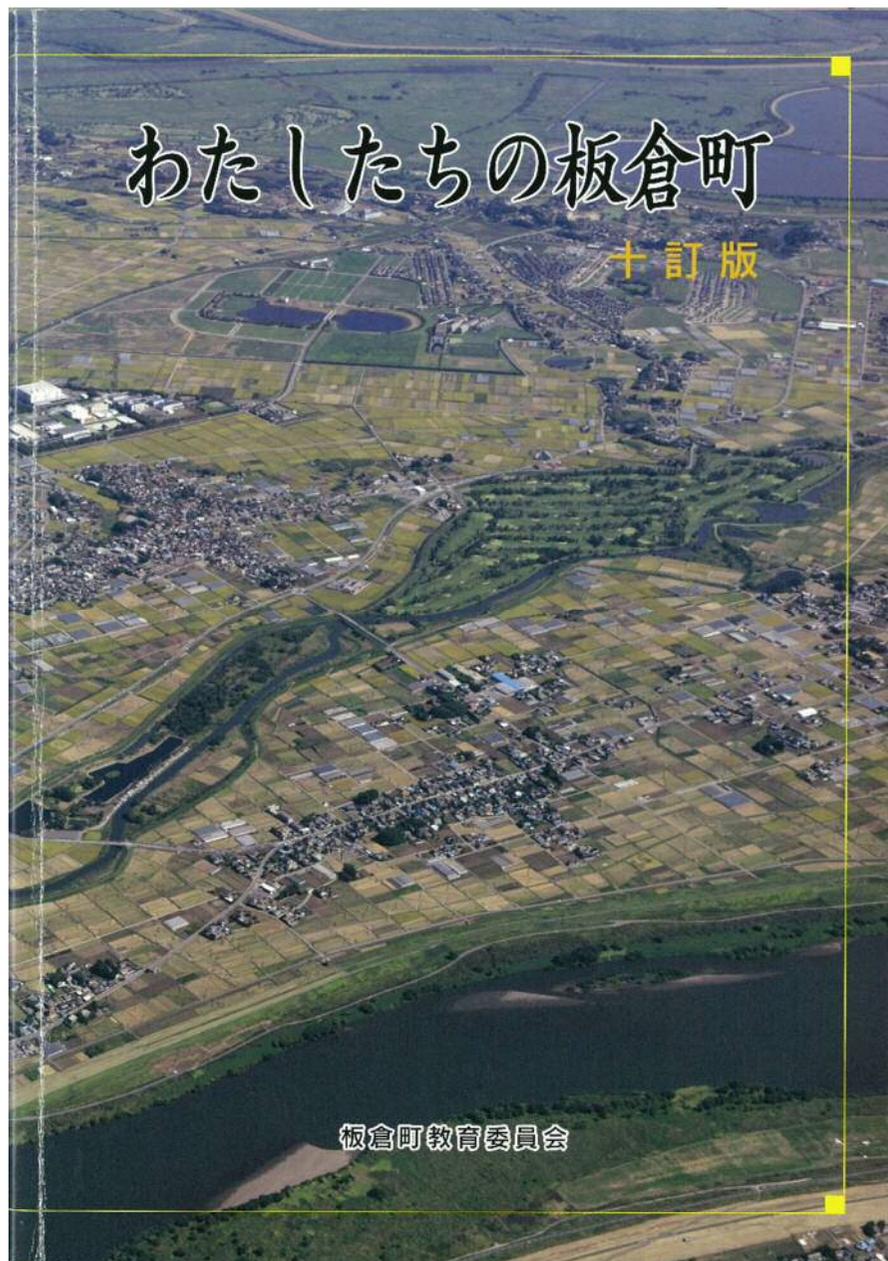


体験する：降雨体験車による集中豪雨の体験



体験する：板倉消防署職員による簡易水防工法の学習

## ■防災教育の実施



### ○具体的取組： 防災教育の実施

#### ○実施概要

町内小学校の3年生と4年生で使用する社会科副読本に、防災教育に関する項目の追加について検討する。

利根川上流河川事務所と町教育委員会が連携し、平成30年夏頃から社会科副読本の改訂作業に着手する。

利根川上流河川事務所から写真や図表などの提供や年間計画の作成支援を受け、平成32年度から用いる社会科副読本「わたしたちの板倉町（十一訂版）」において、年間計画に組み込んだ形で防災教育を位置づける方向で検討する。

#### スケジュール（予定）

平成30年度

副読本改訂 着手

- ・ 情報交換
- ・ 使用資料の選定

平成31年度

副読本改訂作業

- ・ 編成会議の開催

平成32年度

新たな副読本を使った授業

- ・ 年間計画に組み込んだ防災教育の実施

## ■ 防災行政無線の戸別受信機貸与事業

## 【事業の概要】

戸別受信機については保証金10,000円を支払うことにより設置が可能であるが、世帯員の中に重度の要介護者や障害者がいる世帯は保証金を免除することが出来る。

さらに平成29年度には、保証金免除の範囲に「65歳以上の単身世帯」を追加し、要配慮者への支援を拡充した。



■ 災害なんかに負けないぞ教室

【事業の概要】

夏休み中の児童を対象に実際に災害が発生した場合の対処方法を教授する。

その中の1つに水害時を想定し、着衣・着靴のままプールに入水し、実際にどのような状況になってしまうのか実体験してもらう。



## ■防災士養成事業補助金

### 【防災士とは】

社会の様々な場で減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、さらに、そのために十分な意識・知識・技能を有する者として認められた人

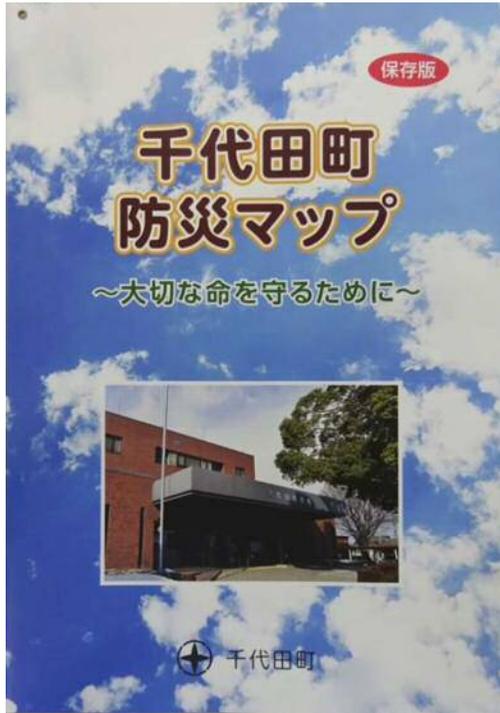
### 【事業の概要】

防災士取得のために防災士研修機関が実施する講座を受講する必要があるが、その受講料、教本料等について町が負担する。

### 【事業の効果】

平成28年に当該補助制度が施行されたが、それ以前の資格保持者は消防署員などを代表とした9名しかいなかった。施行後は消防団員を中心に取得者が増え続け、現在は27名となっている。自主防災組織の者の取得者が増え、特に自助・共助部分において機運が高まっている。

# 千代田町防災マップの作成



平成30年3月作成



全戸配布

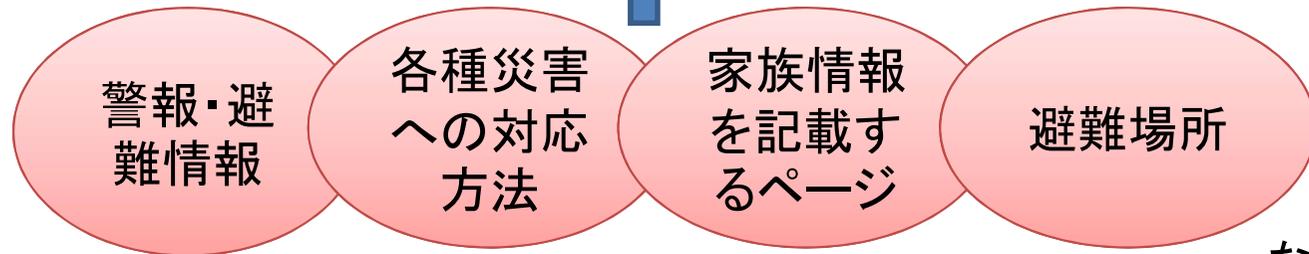
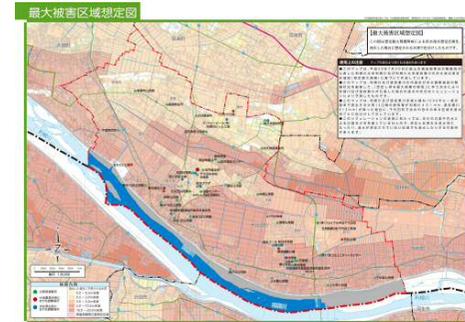
## 【経緯】

- ・ 平成29年7月 国土交通省発表
- ・ 「洪水浸水想定区域図」を受けて作成



## 【内容】

- ① 1%の確率で発生する大雨を想定した「計画規模浸水区域想定図」
- ② 千年に一度の確率で発生する大雨を想定した「最大被害区域想定図」



など

## ■千代田町自主防災組織連絡協議会の設立

### 【設立の趣旨】

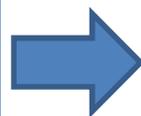
町内の自主防災組織単体での活動には限界があり、情報交換・研修の場として、「千代田町自主防災組織連絡協議会」を今年度中に設立予定。

#### 自主防災組織設置地区 (11団体)

五反田、桧内、上五箇、6区、7区、鍋谷、福島、新福寺、15区、16区、17区

#### 【各自主防の活動】

- ・初期消火訓練
- ・AED講習
- ・炊き出し訓練
- ・地区内防災マップ作成
- ・一時避難所の申合せ 等



#### 【連絡協議会の活動】

- ・他地区の活動状況把握
- ・情報交換
- ・被災地視察
- ・防災士による講演会 等



## ■取手市避難所開設訓練



開催日時：

平成30年1月27日午前7時から

開催場所：

取手第二中学校 体育館

参加者数：

100名

訓練概要：

自主防災会や消防団員、避難所担当職員に参加いただき、避難所開設の流れを説明したのち、備蓄倉庫から物資の搬出、簡易間仕切り作成、簡易トイレ設置等の開設訓練を行った

■取手市防災講演会

**取手市**

# 防災講演会

～災害時の心得として皆様に伝えておきたいこと～

入場無料  
手話通訳あり

平成30年 **1/27** 土

開場9:30 開演10:00  
(11:30終了予定)

取手市福祉交流センター  
(取手市役所敷地内)  
多目的ホール

講師  
主婦 中島 恵美さん  
(実家のある常総市で被災)

つくばみらい市にお住まいの中島恵美さんを迎え、平成27年9月の関東・東北豪雨で甚大な被害を受けた常総市での水害について、当時の被害の状況、また、水害時に現場で実際に起きた実体験を踏まえながら語っていただける講演会です。

共催  
取手市・取手市社会福祉協議会  
とりで障害者協働支援ネットワーク

お問い合わせ  
取手市役所 安全安心対策課  
0297-74-2141(代表)

開催日時：

平成30年1月27日午前10時から

開催場所：

取手市福祉交流センター

参加者数：

200名

講演会概要：

平成27年9月関東・東北豪雨の際に、常総市にて被災され方に講師としてお越しいただき、当時の被害の状況や現場での体験談をお話しをされ、市民の水防災意識の啓発をしていただいた。

## ■まるごとまちごとハザードマップ整備・拡充

### ●実施内容

・浸水が想定される区域内の主要道路等にある一部の電柱に、想定される浸水の深さの最大値を看板やテープで表示。

鬼怒川(赤いテープ)はH28設置, 小貝川(青いテープ)はH29設置。



3.0m  
**鬼怒川**  
Kinu River  
**想定浸水深**  
Flood Water Depth (Projected)  
(赤いテープの高さ)  
The height of the red tape  
この場所は**鬼怒川**がはん濫すると  
浸水する可能性があります  
During Kinu River flooding, it might be flooded.  
000 常総市 29.2

3.0m  
**小貝川**  
Kokai River  
**想定浸水深**  
Flood Water Depth (Projected)  
この場所は**小貝川**がはん濫すると  
浸水する可能性があります  
During Kokai River flooding, it might be flooded.  
(青いテープの高さ)  
The height of the blue tape  
常総市 29.2

## ■住民等への情報伝達方法の改善

- 目的：高齢者，外国人，市外からの来訪者等に的確に防災情報を伝達する。
- 実施内容：①防災行政無線の戸別受信機とテレビ，テロップ表示盤などを連動させて分かりやすく表示する機能拡充。  
②防災情報のプッシュ通知（多言語対応）等を行うスマートフォンアプリの整備。



# みんなでタイムラインプロジェクト 常総市モデル地区における検討



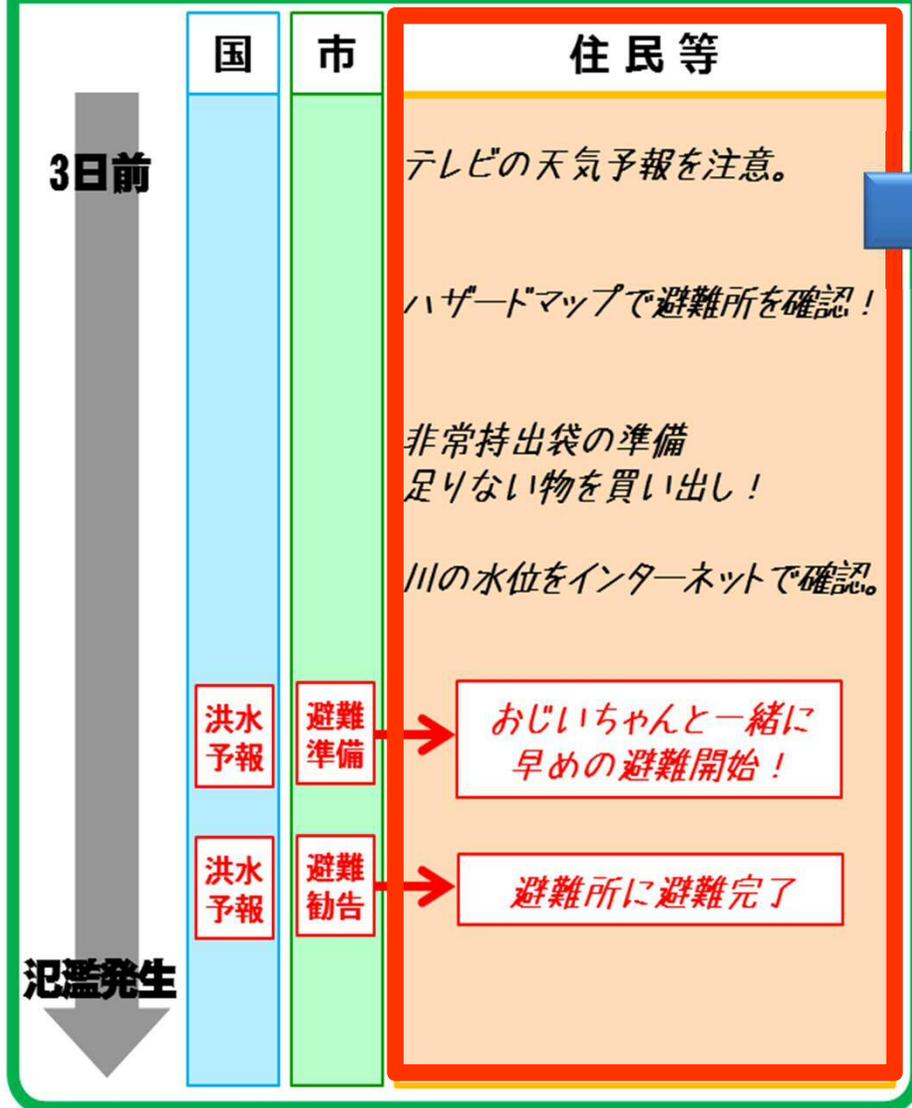
茨城県常総市

# 目次



- (1) マイタイムラインの普及
- (2) モデル地区における  
タイムライン作成までの流れ
- (3) 検討会の成果と課題
- (4) 現在の取組み

## 一人ひとりのマイ・タイムライン(イメージ)



## 各世帯の何が認識・理解できるか

- ★水害のリスクを認識  
浸水・危険地域、避難所までの距離 等
- ★逃げる時期・要領を理解  
いつ、誰と逃げるか
- ★近所の相互支援の必要性(共助)を認識  
高齢者・障害者等の避難を支援

## 各世帯に何ができるか

- ★準備・対応の漏れを防止
- ★判断をサポート

**逃げ遅れゼロ**

- ①河川事務所・市役所のHPに、「手引き・ノート」、「簡易版」等を掲載中
- ②防災士に対し、研修会等実施をして自主防災会に逐次普及
- ③防災ガイドブック(初版)に掲載し、各世帯に配布 H30. 4



# モデル地区における マイタイムライン作成までの流れ

## 地区代表者 への説明会

- 自治区長、班長に作成目的や今後の進め方、住民への周知方法に関して説明

## 運営会議の 実施

- 自治区長、学識者、常総市、警察署、消防署、茨城県、水戸気象台、下館河川事務所のメンバーで検討会の趣旨・進め方「マイタイムラインノート」の確認、グループ討議の方法、今後の予定等について意見交換

## 検討会の実 施

- 住民参加での検討会により、マイタイムラインを作成
- 若宮戸地区(検討会2回開催)根新田地区(検討会3回開催) \*
- 自治区長、グループリーダーから検討会を終えてのアンケート実施

出典：常総市マイ・タイムライン検討会(2017. 3)  
みんなでタイムラインプロジェクト常総市モデル地区における  
検討の記録

# 検討会の成果と課題

## 得られた成果

- 逃げ遅れゼロを理解
- 地域が助け合って逃げることの重要性を認識

## 行政における課題

- 企画するにあたり、期間・場所・経費の所要大

## 住民が抱く課題

- 完結するまでに日数を要した(半年かけて2地区実施)
- 内容の理解が困難(参加率が減少傾向)

# 広域避難の状況(市が把握した状況)



# 市内小中学校の一斉防災教育・訓練② (H29.9.1)

市内の全小中学校19校で、水害時の各人の避難行動計画（マイ・タイムライン）作成、避難所運営、中学・保育園合同避難訓練等を実施し、防災意識を向上

中学校用のマイ・タイムライン作成



小学校用のマイ・タイムライン作成



## 【防災】常総市内小中学生がつくったマイ・タイムラインの記録集が完成 全国への広がり期待

Tweet

いいね! 57

[2018-03-22]



神達市長(後方右から3人目)、里村所長(同4人目)と児童・生徒ら

国や茨城県、13市町で構成する「鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会」(事務局・関東地方整備局下館河川事務所)は、常総市内の6小中学校の児童・生徒らがつくったマイ・タイムラインやその取り組みの様子などを収録した記録集を作成・公表した。19日には常総市役所に6校の代表児童・生徒らを招き、記録集などを贈呈した。

同協議会は、犠牲者ゼロなどの目標に向けた迅速かつ的確な避難行動を実施するため「みんなでタイムラインプロジェクト」を進めている。

その一環として、2017年9月1日の常総市小中学校一斉学校防災訓練では、大生、菅原、水海道、豊田、三妻の5小学校と鬼怒中学校の一人ひとりが、台風が発生してから川の水が氾濫(はんらん)するまでの備えをマイ・タイムラインとしてまとめた。

贈呈式で常総市の神達岳志市長は「マイ・タイムラインは日本で初の取り組みです。これが全国の子どもたちに広がり、子どもたちが防災にもっと目を向けていただくようになれば本当に頼もしい限りです」とあいさつした。

同事務所の里村真吾所長は、「隣の下妻市ではこの記録集を使って防災教育を始めようとしています。これがどんどん全国に広がればいいなということでもとめました」と語った。



# 「防災ガイドブック」を各世帯に配布 (H30. 4～)

#結局、翌日にヘリにきてもらいましたこのようなことがあったら  
すぐに避難しないといけないと思った

#盲導犬がいると避難所生活は無理だと思う

## わが家の防災 ガイドブック

#障害別の避難所を作って欲しい

#とても辛かったけど、とても大切なことに気が付いた

#ただ虚しくなり気力が失せてきて、今はただ毎日無気力で過ごしています

#用意しておかないものが分かった

#情報が不足して判断が遅れる

#天満町内の役員さん達がおにぎりや飲み物を配ってくれて  
感謝しながらいただきました

#常日頃からの近所  
との付き合いが大事と思った

#できれば常総市に居たい

#車椅子での避難は難しいと  
思いました

#避難所生活は障がい  
無理だと思います

#防災無線の聞き取りが  
できない別の連絡方法  
を探して欲しい

#隣近所との絆が大切

#避難場所の誘導シュミ  
を行政中心で行う

#防災無線は聞き取れな  
い

#電話が繋がらなくて社協  
に連絡できなかった

ぬり絵があるよ



障がい者の防災を考える連絡協議会  
常総市

【目的】  
「障害者の防災を考える連絡協議会」と「常総市」が協力し、自分の身と家族を守るため、そして、要配慮者を地域で守ることを目的として作成・配布

- 【内容】
- ①災害特性(水害、地震等)
  - ②情報収集方法と連絡方法
  - ③災害への備え  
常備品、マイ・タイムライン等のチェックリスト
  - ④要配慮者への対応  
障害者の特性に応じた備え、配慮等
  - ⑤洪水ハザードマップ 等

※ 市ホームページに掲載

## ■タイムラインに基づく実践的な訓練

- 目的：行政・住民の合同による出水期を想定した図上訓練。  
災害時対応能力向上と水防災意識の共有を図った。
- 実施日：平成29年5月28日
- 実施内容：行政は「タイムライン」、住民は「マイ・タイムライン」を参考にして、対応行動の確認を行った。



## ■小中学生を対象とした防災教育の実施

- 目的：市内小中学生に対する防災意識の醸成
- 実施日：平成29年9月1日
- 実施内容：水害を想定したクロスロードゲームやマイ・タイムラインの作成を通して、災害時にどのような行動を取るべきか考えるとともに、避難所の設営訓練等、学校毎に様々な取り組みを行った。



## ■防災ラジオ配付

災害などの緊急時に迅速に情報を提供し、適切な行動をとることができるように、平成28年11月から市内全域で防災ラジオの放送を開始した。集中豪雨などの荒天時でも室内で放送を聞くことができ、避難に関する「緊急情報」や「防災情報」などをはっきりと確認することができる。

## ●防災ラジオの機能

280MHzの周波数帯（ポケットベルの周波数帯）を使用。防災行政無線の放送内容が防災ラジオから合成音声で流れる。平常時には、FM及びAMラジオとして使用可能。

## ●緊急時の放送

国からの緊急情報（Jアラート情報）  
緊急地震速報、気象等の特別警報、弾道ミサイル情報など

## ●市からの情報

避難に関する情報、防犯等に関する情報、行方不明者の情報、緊急性の高い情報、その他イベント情報など  
定期試験放送 毎月1日 午後5時～



## ■庁舎非常用発電装置の耐水化

・ 外観



・ 本体



## ■標高表示

平成25年3月に利根川沿川で実施したものに引き続き、同年8月に砂崎～刈浜行政区までの西仁連川沿いの電柱に標高を表示したステッカー170枚を設置。

設置には、地元の区長、消防団、子供会、交通安全協会、交通安全母の会の方等約250名の協力をいただいた。



ステッカー設置作業  
平成25年より継続実施中

標高表示ステッカーは過去の水害や現在の地形を考慮して標高と危険度を表示。

- 赤・・・危険区域（8m～12m）  
災害が発生した場合の避難所や避難経路の確認が必要
- 黄・・・注意区域（13m）
- 青・・・避難受入区域（14m以上）



## ■国と地域住民による堤防点検

### ・点検の様子



## ■バスを使用した広域避難訓練の取組

### ●目的

大規模水害時に市民の命を守るため、広域避難に重点をおいた洪水避難訓練を実施し、広域避難体制の充実と広域避難の周知・啓発を図る。

### ●参加機関

自治協力団体、自主防災会、水防団、加須消防署、災害時応援協定事業所（バス事業者・段ボール工場）

### ●実施日時

平成29年6月18日（日）8時20分～12時00分

### ●内容（抜粋）

#### （1）バスを使用した広域避難訓練

浸水深が深いなど、広域避難の必要性が高い地域から、浸水の恐れが少ない地域へバスを使用した避難訓練及び避難者受入訓練

#### （2）高台等への緊急避難訓練

①情報伝達訓練 ②通信訓練

③避難誘導訓練・バスによる広域避難（災害時要援護者）  
・徒歩による緊急避難（一般市民）

④災害時応援協定締結事業所派遣及び物資供給訓練

⑤避難者数確認・報告訓練 ⑥災害物資配給訓練

⑦避難所開設・運営訓練

### ●参加者数

844人（緊急避難792人、広域避難52人）



バスによる広域避難訓練①



バスによる広域避難訓練②

## ■「こども利根川研究・活動発表会～川はともだち～」を開催

カスリーン台風による災害から70年の節目となる本年、実行委員会を構成する49市区町において小中学校のこども達を対象に募集した。

利根川や水害などについて知ってもらうことを目的に取り組んだ作品（壁新聞、作文、絵画 応募総数37校646点）の発表会を開催しました。

### ●募集内容および選考経緯

- ・小学校低学年の部（作文、絵画）
- ・小学校高学年の部（壁新聞、作文、絵画）
- ・中学校の部（壁新聞、作文、絵画）

9月4日～9月8日 募集作品の受付

9月中旬 一次審査（事務局）

9月20日～10月12日 各部門別に二次審査

（1都5県内の8市区で開催 加須市会場は10月3日）

11月6日 選考結果を実行委員長（加須市長）に報告

### ●発表会の概要

日時：平成29年11月18日（土）

10：00～12：00（展示終了）

場所：大利根文化・学習センター「アスタホール」

概要：各部門最優秀賞表彰（大橋実行委員長）

各部門優秀賞表彰（三橋実行委員）

最優秀賞受賞者作品発表・インタビュー（小栗幹事長）

記念撮影

出席受賞者は46名 館内にて受賞作品を展示



最優秀賞表彰後 記念撮影



最優秀賞

小学校低学年の部

## ■「治水の日」式典

昭和22年9月のカスリーン台風の甚大な災害の教訓を踏まえ、その記憶を後世に語り継ぐとともに、犠牲者のご冥福を祈り、利根川の治水事業の重要性を広く理解して頂くことを目的として、利根川上流河川事務所の主催で以下のとおり開催されました。

### ●「治水の日」慰霊式典

日 時：平成29年9月16日（土）

9：30～9：47

場 所：埼玉県加須市新川通地先  
新川通地区河川防災ステーション  
「決壊口跡」の碑

概 要：献花・黙祷

### ●「治水の日」継承式典

日 時：平成29年9月16日（土）

10：45～12：35

場 所：文化・学習センター「パストラルかぞ」大ホール

概 要：国交省水管理・国土保全局長説明、  
体験談披露（DVD）、決意文宣誓



献花・黙祷



体験談披露（DVD）

## ■防災講演会の開催

### ●目的

利根川、気象・防災について学び「災害に強いまちづくり」を進めるため。

### ●実施日時

平成29年5月19日（金） 14時30分～16時45分

### ●実施場所

市民プラザかぞ視聴覚ホール

### ●主催

第66回利根川水系連合・総合水防演習実行委員会

### ●講演内容

講演① 14:35～15:35

「カスリーン台風から70年」

講師：関東学院大学名誉教授（河川工学） 宮村 忠先生

講演② 15:45～16:45

「水災害からいのちを守るために」

講師：気象キャスター・予報士 酒井 千佳さん  
（NHK「おはよう日本」気象情報担当）

### ●聴講者数

78名



講演①

「カスリーン台風から70年」



講演②

「水災害からいのちを守るために」

## ■第66回利根川水系連合・総合水防演習の開催

### ●目的

水防団の水防技術向上と士気の高揚を図るとともに、後継者の育成を行い水防技術の継承を図り、地域住民の防災意識を高め、水防体制に万全を期するため

### ●参加機関・協力団体等

加須市・羽生市水防事務組合水防団、埼玉東部消防組合、加須市地区自主防災会、小中学校、高等学校、大学、加須市赤十字奉仕団、加須市女性水防団、防災協力建設安全協議会、市内各企業、日本郵便(株)加須郵便局、関東地方整備局、利根川上流河川事務所、埼玉県、行田県土整備事務所、埼玉県警察、埼玉防災航空隊、陸上自衛隊、日本赤十字社埼玉県支部、独立行政法人水資源機構、国土地理院

●実施日時：平成29年5月20日（土）8:30～12:30

●実施場所：加須市新川通地先利根川河川敷（カスリーン公園付近）

●主催：国土交通省、埼玉県、千葉県、栃木県、群馬県、茨城県、東京都、神奈川県、加須市

●演習内容：(1) オープニング  
(2) 第1部 水防訓練・避難情報広報訓練  
(3) 第2部 救出・救護訓練  
(4) 展示・体験コーナー

●参加者数：水防団のほか参加団体・企業を含め1,000名、来場者を含めると約15,000人



決潰跡を田中副大臣、上田知事、市長が視察



1部演習 水防団員が水防工法に着手

■タイムラインに基づく実践的な訓練(県土整備部タイムラインの作成と活用)

- 県土整備部タイムラインを作成 (平成29年10月)  
(台風の接近・上陸に伴う大雨・洪水を対象)
- 栃木県減災対策協議会(全市町)にも資料提供・情報共有
- 台風第21・22号で活用【万全な体制で対応】

**これまでの課題**

- ・異常気象の際に、河川班、砂防班、道路班、ダム班に分かれ、各々の災害時マニュアルに基づき対応しているため、部の横断的な対応を求められた場合の迅速な対応が課題。
- ・全体的な一連の対応が明文化されておらず、また、職員の若返りや減少等もあり、今後の適切な災害対応活動に懸念。

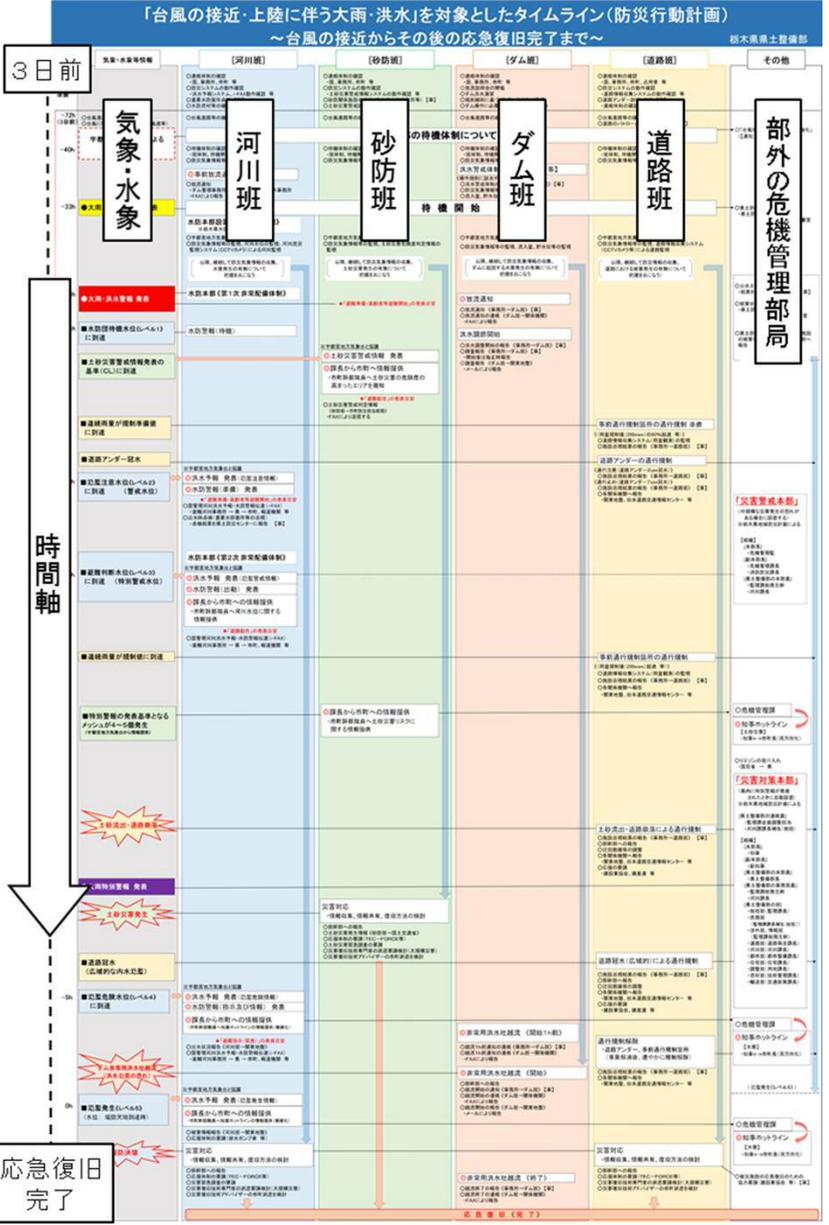
県がタイムラインを作成(見える化)

- 工夫点**
- ・河川班だけでなく、砂防班等の各班及び本庁・事務所間の行動内容を時系列に沿って横断的に明記。
- 効果**
- ・今後、各市町における水害対応タイムラインの作成への波及が期待。
- 今後**
- ・災害対応や訓練等で活用し、必要に応じて見直しを実施。

**県の災害対応時系列で 防災行動計画を作成**

2017年10月29日 読売新聞

【栃木県】県土整備部は、台風の接近・上陸に伴う大雨・洪水に備え、河川、砂防、ダム、道路の各担当課が連携して迅速に対応するための「防災行動計画」を作成した。この計画は、各担当課の役割と連携体制を明確にし、災害発生時の対応手順を時系列に沿って示している。また、河川、砂防、ダム、道路の各担当課が連携して迅速に対応するための「防災行動計画」を作成した。この計画は、各担当課の役割と連携体制を明確にし、災害発生時の対応手順を時系列に沿って示している。



## ■小中学生を対象とした防災教育の実施

### 【実施概要】

河川水難事故防止に係る出前講座を実施した。

- ・実施日：平成29年7月7日
- ・場 所：栃木市立栃木第三小学校



《土木事務所職員による講義の様子》



《ライフジャケット体験の様子》

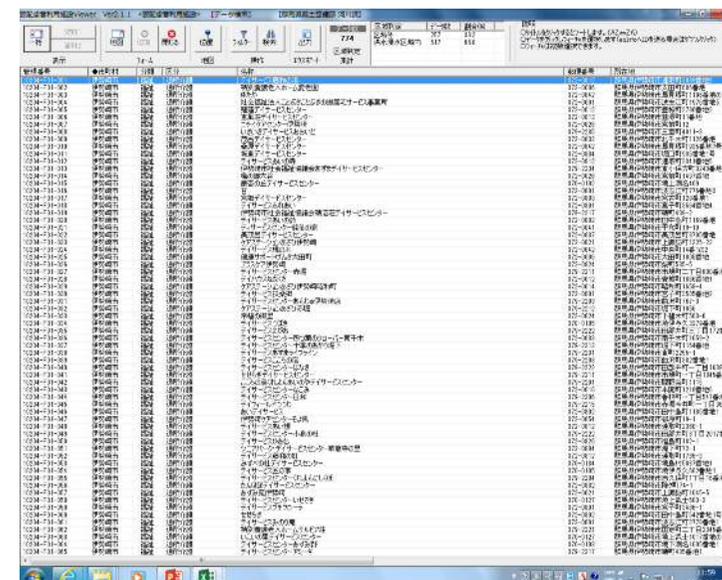
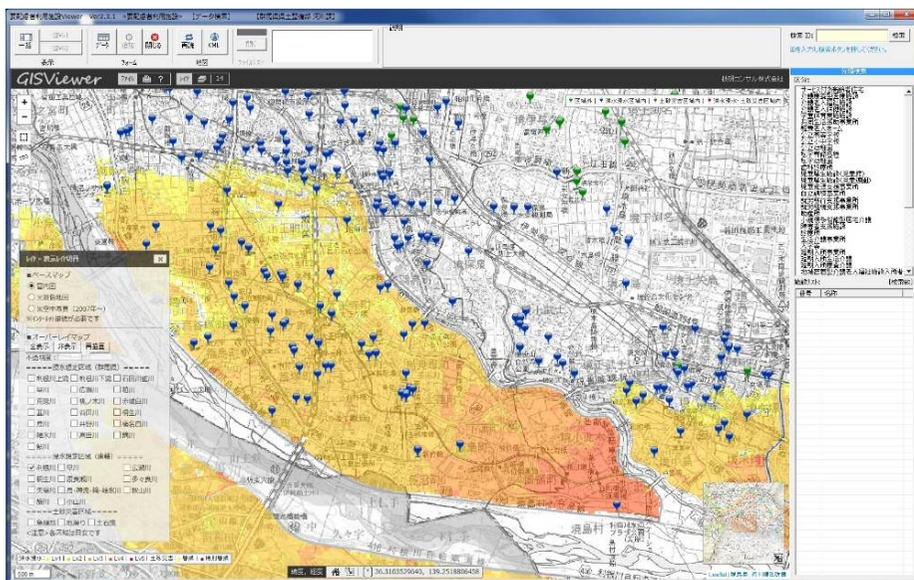
## 要配慮者利用施設Viewerの作成・配布

●目的：要配慮者利用施設の避難確保計画作成に資する支援

●実施内容：

要配慮者利用施設対象施設（福祉施設、学校、医療施設）の位置情報と洪水浸水想定区域図を重ね合わせ、各施設が区域内に所在するか確認する。

作成したデータを各市町村に提供し、地域防災計画に定める要配慮者利用施設の選定を支援することにより、避難確保計画作成及び避難訓練実施の促進を行う。



- 【要配慮者利用施設Viewer 地図検索フォーム】
- ・地図に各施設位置をポイント
  - ・ポイントは浸水想定区域、土砂災害区域の内外により色分け
  - ・ポイントから施設情報の表示が可能
  - ・浸水想定区域図は、全河川または河川毎に表示可能

- 【要配慮者利用施設Viewer データベースフォーム】
- ・県内の対象候補全施設をデータベース化
  - ・フィルター機能により、施設分類や浸水想定区域内外等の区分による選択が可能
  - ・選択した施設を地図検索フォームに反映

## ■防災行政無線の改良

○目的：河川決壊時の浸水対策工事

○着手：平成29年6月

○完了：平成29年8月

○備考：14局（昨年度は10局）

- ・防災行政無線の屋外拡声子局の外部接続箱及び屋外受信拡声装置の取付け位置を変更し、地上高5メートルの位置に変更した。



## ■水防災に関する説明会の開催

### ○出前講座を活用した講習会の実施

○目的：出前講座を活用した防災意識の高揚を図る

○着手：平成29年4月

○完了：平成30年3月

○備考：年間、学校及び自治会等へ13件実施



## ■防災無線の拡張整備

### ● 同報系防災無線の拡張整備

平成26年度に災害情報や避難情報等を一齐に音声放送で伝達する同報系防災行政無線（屋外スピーカー）の運用を開始。

平成29年度は42基を拡張整備し、市内152基の整備となっている。



## ■本庁舎の止水対策工事

### ● 本庁舎の止水対策工事

平成27年9月関東・東北豪雨災害の際、本庁舎周辺は内水氾濫により、冠水状態であり、本庁舎1階は水浸しの状態となった。

平成29年度に止水対策工事を実施。冠水が予想される際には、出入口に止水板を設置することにより、庁舎内への浸水を防ぐ。



## ■PC、スマートフォン、携帯電話に防災・気象情報の配信

- 目的：防災・気象情報を様々な媒体で住民に伝達する
- 配信開始：平成28年10月～
- 実施内容：
  - ・ 火災情報（火災の発生場所）
  - ・ 防災情報（避難情報、防災無線放送内容等）
  - ・ 気象情報（大雨・暴風・土砂災害等の警報・注意報、地震の震度）

佐野市防災・気象情報メールにご登録ください！



佐野ブランドキャラクター さのまる

© 佐野市

登録はこちらから！

こちらのQRコードを読み取り、  
空メールをお送り下さい！▶▶▶

※QRコードの読取ができない方は  
「t-bousai-sano@sg-m.jp」宛てに  
空メールをお送り下さい。



V-0012

## ■防災講演会の実施

- 目的：防災講演による防災意識高揚
- 着手：平成27年度～
- 完了：継続実施
- 実施内容：
  - ・各町会、自主防災会、各団体へ参加を呼びかけ講師を招いての防災講演のほか、市からの情報提供、自主防災組織の事例発表を行っている。



平成29年度 佐野市防災講演会

## ■災害対応研修「クロスロードゲーム」

実施内容：地域での災害予防・対応の中心となる防災士・公民館職員を対象に、ゲーム感覚で災害対応について考えることができる「クロスロードゲーム」による研修を実施した。

日時：平成29年7月1日（土）午前9時30分～正午

場所：大島公民館 講堂

講師：神戸クロスロード研究会 代表理事 濱 尚美氏

参加者：館林市防災士・館林市職員・50名



## ■出前講座を活用した講習会の実施

- 目的：出前講座を活用した防災意識の高揚
- 実施内容：
  - ・各団体・自治会へ出向き防災に関する出前講座を実施
  - ・平成29年度、実施件数は25件



出前講座：緑町自治会

## ■自主防災組織や消防団の研修の実施

自治会の自主防災組織隊員を対象に、防災に関する基礎的な知識と技能修得を目的として本庄市主催でリーダー養成講座を開催。また、消防団（水防団）を対象に、水防活動に必要な知識と重要水防箇所を把握を目的として水防研修を開催。

## リーダー養成講座の内容とスケジュール

時間	カリキュラム
9:30～10:30	受付
10:00～10:05	開講式（あいさつ）
10:05～10:30	自主防災組織の意義と役割
10:30～11:00	イツモ防災講座（簡略版）
11:10～12:00	救護訓練
12:00～13:00	休憩
13:00～13:30	自主防災活動の事例紹介
13:30～16:30	災害図上訓練DIG
16:30～16:45	修了証書交付、閉講式



DIG訓練を通して浸水想定区域や避難場所を確認

## ■小中学生を対象とした防災教育の実施

目的：鴻巣市総合防災訓練において小学生を対象にスタンプラリーを実施することで、多くの幅広い年齢層のかたにご参加いただくため。

内容：「煙中避難訓練」や「初期消火訓練」等の受付でスタンプを押してもらい、3個スタンプを集めると景品がもらえる。

実施日：平成29年9月3日（日）

参加児童数：約600人



**鴻巣市総合防災訓練の実施**

体験して災害対応を学ぶ

☆はしご車に乗ろう  
(3年生から6年生までで、先着30名程度限定)  
朝9時から市役所ATM横丁にて整理券配布予定  
スポン、スノーカー着用のこと

☆VR(バーチャルリアリティ)で  
避難体験ができるよ  
(5年生以上)

☆AEDを使って  
心肺蘇生訓練をしてみよう  
L.A.S.T. E.S.T. C.A.R.A

☆陸上自衛隊から学ぶロープの結び方体験など

☆特殊車両(消防車など)の前で写真が撮れるよ

ほかに楽しい体験型訓練がいっぱい、  
自衛隊カレーも食べられるんだって!

スタンプラリー実施!  
裏面にスタンプをおしてもらってね。

お問い合わせ先 / 鴻巣市役所 企画部 危機管理課  
電話：048-541-1321

Since 1954

スタンプラリー(小学生限定)

景品引換所印  
04-08-541-1-61

スタンプを3個集めて景品をゲットしよう!  
景品は受付でもらえるよ!

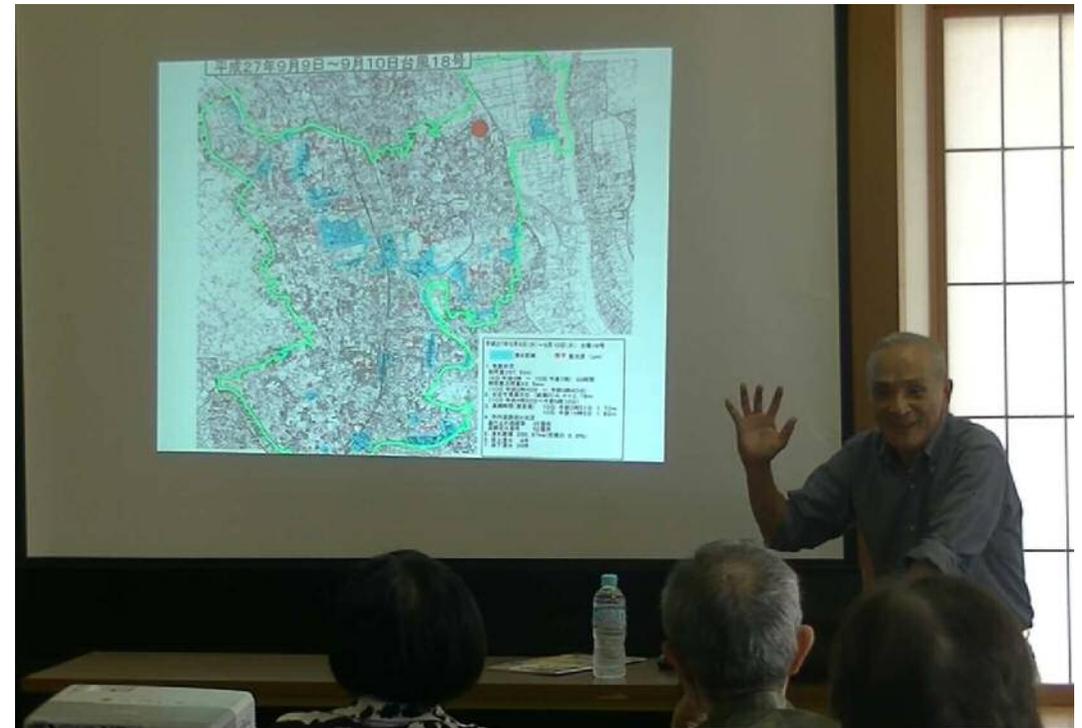
煙中避難訓練	119ダイヤル体験
心肺蘇生訓練	171ダイヤル体験
初期消火訓練	ロープ結び体験
要害ボランティアセンターのO×クイズ	

鴻巣市 小学校  
年 組  
名前



## ■出前講座を活用した防災意識の講演会の実施

- 目的：出前講座を活用した水災害等  
防災意識の高揚
- 実施内容：
  - 行政区・各団体に出向き  
水災害等防災に関する  
出前講座を実施
  - 平成29年度、実施件数は29件



出前講座：谷塚元気ひろば

## ■出前講座を活用した講習会の実施

- 目的：出前講座を活用した防災意識の高揚
- 実施内容：行政区、各団体に出向き防災に関する出前講座を実施。  
平成29年度、実施件数は9件。

## ■地区公民館等を利用した「防災講習会」の実施

目的：自主防災意識の高揚

着手：平成29年4月～

内容：地区公民館等に出向き、  
防災講習会を実施  
(平成29年度は8件実施)



## ■防災行政無線のデジタル化工事の実施

- 目的：
  - ・ 防災行政無線をデジタル化することで、防災行政無線の「聞こえない」、「聞き取りづらい」を解消するとともに、防災行政無線をデジタル化することで、災害対策本部の情報処理・分析能力の向上を図る。  
あわせて、防災行政無線のほか、補完システムとしてツイッター、登録制メール等の多様な情報手段を利用することで、全ての住民に確実かつ迅速に災害情報を伝達する。
- 着手：平成28年9月6日
- 完了：平成29年9月29日まで
- 実施内容：
  - 防災行政無線（同報系・移動系）のデジタル化整備工事及び補完システムの整備
    - 〈同報系〉
      - ・ 基地局及び屋外拡声子局（48箇所）、戸別受信機（23箇所）の整備
    - 〈移動系〉
      - ・ 防災行政無線（移動系）及びデジタル簡易無線の整備
    - 〈補完システム〉
      - ・ 防災ツイッター
      - ・ 防災ポータルサイト（防災ホームページ）
      - ・ 登録制メール
      - ・ 地上デジタルテレビデータ放送 等



屋外拡声子局

## ■野田市水防演習

- 目的 出水にあたり、水防要員の士気を鼓舞し、作業能力の向上を図り、もって水防体制の万全を期することを目的とする。
- 要領 団体規律の練磨と水防工法の向上に重点を置く。
- 日時 平成29年5月14日(日)  
※平成30年度は5月13日(日)  
に開催予定
- 内容 毎年出水期前に台風による洪水など、万が一の場合に備え、水害による被害を最小限に備えるために、堤防決壊を防ぐ木流し工法などの水防工法の演習を行います。



# 想定最大規模降雨によるハザードマップの作成・周知

## 取組内容

- ・想定最大規模降雨における浸水深や浸水継続時間を利根川及び手賀川・手賀沼に分けて掲載
- ・併せて、内水浸水実績や地震ハザードマップも掲載

## 取組目的

- ・水害時の危険箇所、避難場所・避難経路、防災関連施設等を掲載し、安全な避難への役立て

## 実施事例等



# あびこ ハザードマップ



このハザードマップは、台風や豪雨による水害、大規模な地震の揺れや液状化などに、日頃から備えるべく、危険箇所をはじめ、避難に必要な避難場所・防災関連施設などを、市民のみならず確認できるように作成したものです。万が一の場合に備えて、安全な避難に役立ててください。

**このマップについて**

**マップの使い方について** 災害にそなえて

- 自宅や勤務先、学校などの周辺の危険箇所をハザードマップで確認しましょう。
- あらかじめ、避難場所や避難経路、家族との連絡手段等を話し合ひましょう。
- いざというときの安全な避難行動、日頃からの備えを確認しましょう。

**安全な避難行動** 避難とは、避難所に向かうだけではなく、自ら状況を見極め、命を守る行動の全てが避難です。

止確な情報入手 周辺の状況を把握 早めの避難

平成30年8月発行

情報の入手・基本マップ凡例 1 2

基本マップ：避難施設や関連施設の確認 3～8

大雨時に考えられる災害など 9 10

浸水想定について 11 12

洪水ハザードマップ(利根川) 13～16

洪水ハザードマップ(手賀川) 17～20

内水(浸水)ハザードマップ 21～24

下水道排水区浸水想定区域図 25 26

地震が起きたら... 27 28

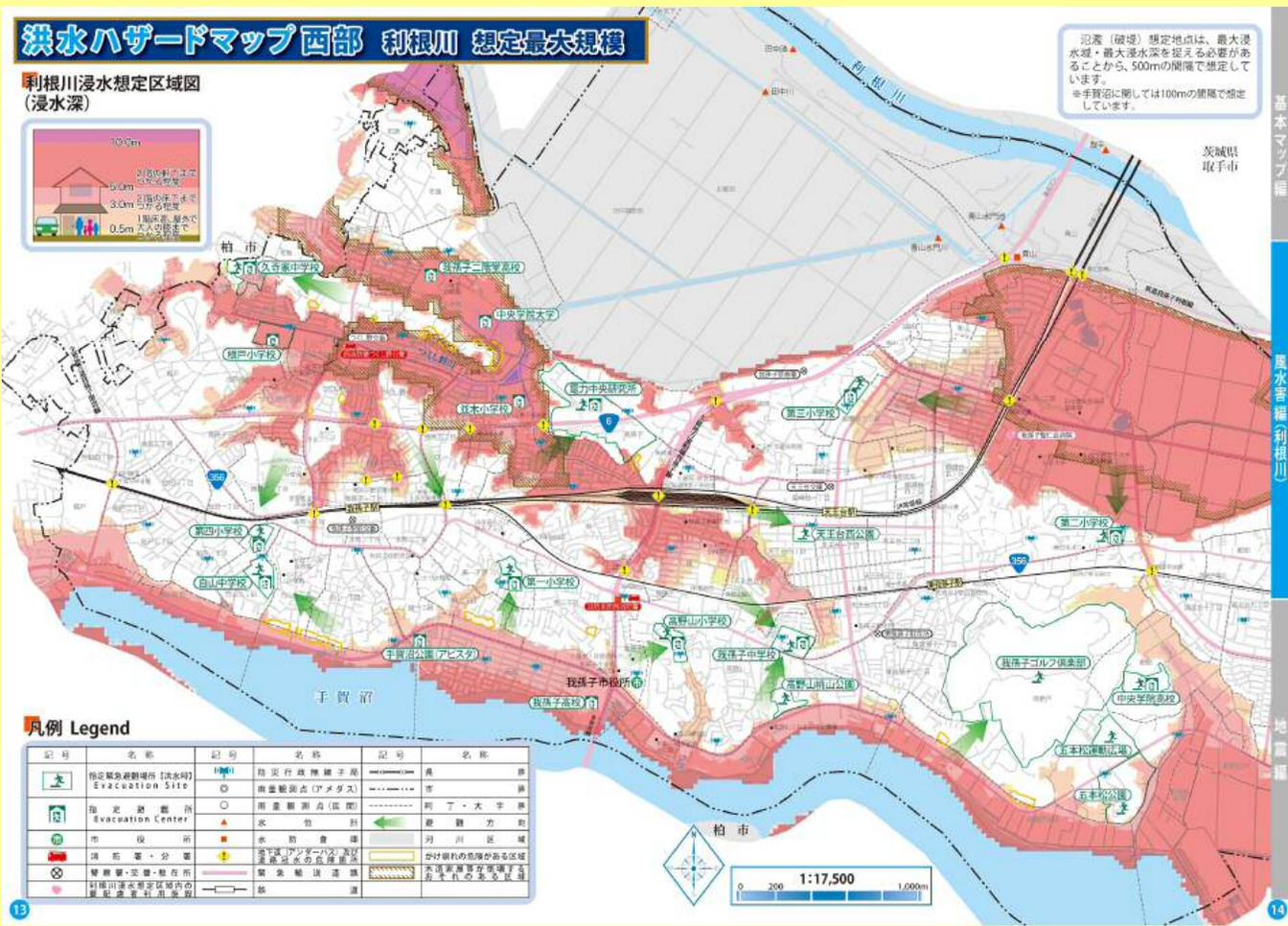
揺れやすさマップ 29 30

液状化危険度マップ 31 32

建物全壊率マップ 33 34

風水害編 利根川

地震編



■水災害の基礎知識や避難行動について広報誌への掲載

取組内容

・「広報あびこ」で年1回、台風や集中豪雨への備えとして、水災害の基礎知識、水害や気象情報の入手方法、避難情報や避難行動などについて周知を図る。

取組目的

・水災害の被害や教訓の伝承、防災知識の住民への周知

実施事例等

**広報 あびこ** 平成29年(2017年) No.1436

**主な内容**

- 避難情報や避難行動を確認しましょう
- 学校通学時の送迎や帰宅時
- 小中学校へ入るお子さんの準備
- 高齢者や障がい者の方
- 子供やペットの避難
- 高齢者や障がい者の方
- 子供やペットの避難

**台風や集中豪雨に備えましょう**

近年、短期間に集中的に大雨を降らせる「集中豪雨」や、台風強みの強力な「強風(低気圧)」の発生が増えています。台風や大雨のシーズンの到来に備え、避難情報や避難行動など、日ごろから風水害への備えを万全にしましょう。

**天気が急変したら注意！都市型水害に備えましょう**

都市型水害とは、洪水の浸透能力を上回る大雨が降った場合に、市街地に水がたまり、道路陥没や車道への浸水などの被害が生じることです。

**大雨の年間観測回数が増えています**

10mm以上の大雨の観測回数は、1976年から1999年の10年間と2000年から2016年の10年間で比較すると約1.3倍増えています。

**低地の冠水**

低地やアンダーパス(立体交差下を通る道路)などでは、浸水が頻りに、車が立ち往生したり、水没するなどの危険があります。車での通行は避けてください。

**風水害や紅葉に関する情報を入手しよう**

防災行動指針とテレホンサービス-避難情報や気象情報をお知らせしています。緊急時の場合は、テレホンサービスをご利用ください。

**市議会定例会が開会中**

9月16日(水)開会

No.1436 平成29(2017年)9月1日

**避難情報や避難行動を確認しましょう**

地震とは異なり、風水害は事前に避難することが可能な場合があります。また、事前準備などの場合は、危険な状況の中での避難はできるだけ避け、身の安全を第一に考えましょう。

**避難情報**

洪水や土砂災害からの安全確保のため、市は河川水位情報などに基づき、3段階の避難情報を防災行政無線や広報誌、メール配信サービスなどでお知らせします。

**避難行動**

避難への準備や避難行動を確認してください。また、災害が発生する危険な状況の中での避難は、必ず事前準備を怠らないうえ、避難行動を確認してください。

**状況に応じた避難行動をしましょう**

○安全な避難所へ避難  
→水防壁  
→避難所や学校、土砂災害警戒区域外の他人の家に避難してください。

○避難の遅い建物などへ避難  
→急いで避難  
→安全な建物への避難の遅いときは、近くの建物の階以上に避難してください。

○建物での安全な場所への避難  
→急いで避難  
→建物の外へ避難ができていない場合は、なるべく高い階などに避難してください。

**避難行動の準備をしておきましょう**

○防災マップなどで、ご自身の住居の危険性を確認しておきましょう。○災害時に役立ちます。○避難所や学校、土砂災害警戒区域外の他人の家に避難してください。

**【我孫子市総合防災訓練】**

日時 10月21日(日)午前9時30分～  
場所 城北小学校校庭  
市防災安全課・内線295

**緊急通報システム「NET119」の運用を開始**

市では、災害や事故に備えるため、緊急通報システム「NET119」の運用を9月1日より開始しました。

**株式会社マツモトキヨシと協定を締結**

8月31日に株式会社マツモトキヨシ(以下「マツモトキヨシ」)と協定を締結しました。

## ■水害図上訓練の実施

## 1 訓練概要

## 【目的】

本訓練は、主に以下の4項目の実現を目的とした。

- ①荒川下流タイムラインにおける区の防災行動の流れを確認する。
- ②区を流れる河川の浸水リスクや避難計画の考え方について確認する。
- ③平成29年台風21号の際の区の対応と教訓を確認する。
- ④豪雨災害で被災した自治体の対応と教訓を確認し、水防要員・災害対策本部要員としてすべき行動の流れを確認する。

【日時】 平成30年3月17日(土) 8:00~12:00

【参加者】 43人(防災課20人、都市整備部23人)



## 2 訓練内容

訓練は、シナリオを参加者で読み上げながら、荒川洪水時の対応を確認した。シナリオの途中には「状況判断」があり、若手職員を指名して、その状況下でどう判断し、対応するかを考えて発言してもらった。



## ■関係機関が連携した実働水防訓練の実施

- ・消防団及び各水防関係機関との連携を強化し水防態勢の万全を図るための水防訓練を実施。

### 【参加団体】

消防署、消防団、警察署、東京都建設局、東京都下水道局、江戸川区災害復旧協力会社 等



実働水防訓練の様子

## 災害・避難カード等作成モデル事業の実施

### 開催状況

- H29.9月からH30.2月にかけて、8市町で開催（古河市、那珂市、利根町、桜川市、常総市、龍ヶ崎市、下妻市、かすみがうら市） ※かすみがうら市は気象庁ワークショップ<sup>注1</sup>を実施
- 参加者数：165名（途中退席者は除く） ※ 見学：2河川事務所、10市町

### モデル事業の内容（概ね3時間）

レクチャー  
（災害情報を正しく理解する）



県職員が気象や災害の基礎知識、避難行動、災害情報の活用方法等について説明

グループワーク①  
（一人ひとりが考える）



マンダラート使用して、「適切な避難行動」に関する自分の考えを外化・整理

グループワーク②  
（地域のみんなで考える）



班別に地域の災害危険箇所や避難場所までの安全な経路等を話し合い、地図に記載し、発表

災害・避難カード<sup>注2</sup>  
に記入

「災害・避難カード」			
氏名			
住所			
生年月日	性別	家族	人
緊急連絡先			
留意事項	持参するものなど		

（表）

災害時が起きた際の行動（主要災害・川のはんらんなど）		
災害	避難の合図	避難行動
※ 緊急時に必要な行動（避難場所、避難経路など）		
！ 注意を促す情報や避難行動の開始が開始されたら…		
誰に？	連絡先は？	留意事項

（裏）

ワークショップを通じて、災害時の行動を記入

### 今後の予定

H30～：モデル事業を他市町村において実施するとともに、事業実施市町村において、他の地域で水平展開を実施

（注1）気象庁ワークショップ…気象庁が開発した学習プログラムで専門家と進行役による災害に関する解説を参加者が聞きながら班別に意見を出し合いまとめていく。

（注2）災害・避難カード…災害種別ごとに、避難行動の内容と避難の合図を整理した「タイミング表」のこと。

（注3）マイマップ…自宅を起点に地域の災害危険箇所や緊急避難場所までの経路などを記載したもの。

記載した地図は、浄書し、後日「マイマップ」<sup>注3</sup>として参加者へ配布



■市町村等と連携した水防災セミナーなどの開催

【目的】

水災害等に対して住民が適切な避難行動をとれるよう、河川管理者が発する河川情報等の伝達体制や情報の活用について理解を深める。

【開催日】

- |        |       |     |                   |
|--------|-------|-----|-------------------|
| ①平成29年 | 6月30日 | (金) | みさと水防災セミナー (三郷市)  |
| ②平成29年 | 10月7日 | (土) | 水防災トークステージ (羽生市)  |
| ③平成29年 | 12月2日 | (土) | わくわくお天気教室 (さいたま市) |
| ④平成29年 | 12月3日 | (日) | 水防災セミナー (熊谷市)     |
| ⑤平成30年 | 1月27日 | (土) | 吉川市減災セミナー (吉川市)   |



みさと防災セミナーの様子



わくわくお天気教室の様子



吉川市減災セミナーの様子

■「危険度の色分け」・「警報級の可能性」・「危険度分布」の提供開始、大雨・洪水警報等の改善

危険度の高まりを伝える情報

・「危険度の色分け」

警報・注意報の発表時に、現象が予想される期間を色分けして、危険度の高まりを伝える情報

・「警報級の可能性」

天気予報の発表(5時、11時、17時)に合わせて発表し、「明日まで」及び「明後日以降」の警報級の現象となる可能性を「高」や「中」で伝える情報

- ・平成29年5月17日から提供を開始
- ・自治体、関係機関等に説明

さらに、メッシュ情報の技術を活用して気象情報を改善

- ・「危険度分布」の提供を開始(7月4日)
- ・大雨・洪水警報を改善(7月7日)



気象警報・注意報

表示イメージ

平成〇〇年〇月5日18時27分 横浜地方気象台発表  
 神奈川県注意警戒事項  
 神奈川県では、6日昼前まで土砂災害や河川の増水に警戒してください。

横浜市【発表】大雨(土砂災害),洪水警報  
 【継続】雷,強風,波浪,高潮注意報

6日朝までに暴風警報に切り替える可能性が高い  
 6日明け方までに波浪警報に切り替える可能性が高い

横浜市		今後の推移(■特別警報級 ■警報級 ■注意報級)										備考・ 関連する現象
発表中の 警報・注意報等の種別		5日			6日							
		18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21		
大雨	(浸水害) 1時間最大雨量(ミリ)	40	40	40	70	70	70					浸水注意
	(土砂災害)											土砂災害警戒 土砂災害警戒情報発表中
洪水	(洪水害)											はん濫
強風	風向 風速 (メートル)	陸上	20	20	20	20	28	28	20	20	20	以後も注意報級
		海上	23	23	23	23	30	30	23	23	23	以後も注意報級
波浪	波高(メートル)	2.5	2.5	2.5	3.5	4.0	4.0	4.0	3.5	3.5		以後も警報級 うねり
高潮	潮位(メートル)	0.7	1.0	1.2	1.5	1.5	1.5	1.5				ピークは6日3時頃
雷												竜巻、ひょう

各要素の予報値は、確度が一定に達したものを表示しています。

今後の危険度の高まりを  
即座に把握

警報級の可能性

神奈川県東部の警報級の可能性  
 東部では、6日までの期間内に、大雨、暴風、波浪警報を発表する可能性が高い。

神奈川県東部		〇/5 17:00発表					〇/5 17:00発表			
種別		5日		6日			7日	8日	9日	10日
		明け方まで		朝~夜遅く						
		18-24	0-6	6-12	12-18	18-24				
大雨	警報級の可能性	高			高		-	-	中	-
暴風	警報級の可能性	-			高		-	-	中	-
波浪	警報級の可能性	高			高		高	-	中	-

[高]: 警報発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況。  
 [中]: [高]ほど可能性が高くないが、警報を発表するような現象発生のある状況。